363
404

始

特217
465

高知市初等教育研究會編纂

高知讀本

高知市教育會發行

昭和一〇.
帝國圖書館藏

三千米の高空より見下したる高知市

はしがき

皆さんを生み、皆さんをはぐゝみ、やがて皆さんの活動を期待してゐるなつかしの地、これが卽ち皆さんの鄕土高知市そのものでせう。

遠い昔から、皆さんの祖先や先輩たちが、如何に活動して、この鄕土の發展に寄與せられてきたか、又現に活動して貢獻せられつゝあるかを、深く研究してみたいと思ふ。

仰ぎ見るお城をはじめとして、神さびた產土のお社や、鏡川の淸流、筆山の綠、さては賑やかな街々と、これにつゞく田園など、一つとしてそれを物語らぬものはない。

やがて、これをうけついで、益々努力をかさね、十萬市民が相擁して、日進し、月步して、理想の大高知市を建設することは、眞に皆さんに

負はされた大きな責任であり、使命ではあるまいか。

郷土を知るは、國を知るの始めにして、郷土を愛するは、實に國を愛するの根本である。皆さんのこの大切な使命を果す資料にもとかんがへて、郷土の歴史や、地理や、公民的の材料や、其他いやしくも、高知市民としての訓練に、必要であらうと思はれるものを撰んで、これを讀本とし、皆さんの座右におくつて、其研究に供したいといふので、高知市教育會が、高知市初等教育研究會に委囑して、高知讀本編纂の計劃をたてたのであつた。

爾來ほとんど一ケ年、三十名の先生方が委員となつて、このことにあたり、熱心に研究調査をなさつたが上に、關係各方面の方々から、いろ〳〵の御指導と、御援助とをいたゞいたそのお蔭で、豫定通り、茲に高知讀本の編纂をはることができたのである。

先づ、皆さんと共に、これ等關係各方面の方々に對して、深く感謝の

意をさゝげたい。

次に編纂に關する二、三の事項を記して、學習の參考に資したいと思ふ。

一、本書は、高知市内小學校兒童第五學年以上の方々の、郷土的讀物として編纂したものである。

二、編纂にあたつて、先づ第一に着眼したことは、郷土の個性を、十分に描きだすと同時に、これに對する親しみの情を、しつかりと培ひたいといふことであつた。

それは、各科學習の基礎を、はつきりする点からいつても、亦郷土の理解ならびに、理解に伴ふ興味を、喚起するといふ点からいつても、至極大切なことであると、かんがへたからである。

三、從つて、教材はなるべく、地方色の豐かなものを、自然や人文の各方面から選擇して、これを趣味的に、かつ平易に記述し、できるだけ郷土の生きた姿を、現はすやうにつとめたのである。

四、教材の排列については、毎學年の學習、三十時間を標準として、十五課を配當し、統一と變化を考慮して、季節に合せしめたのであるが、實際の學習にあたつては、記述の難易や、内容の如何、他教科との聯絡、その他の事情によつて、必ずしも排列の順序によらなくてよい。時と場合にしたがひ、適宜變更して、その活用を第一とせられたい。

五、平常心をとめてゐさへするならば、本書に現れてゐる大部分の事柄は、實地に經驗することができると思ふ。

どうか、單なる空讀みや、讀みすてに終らないで、できるだけ機會をつくつて、實地を見學し、又見聞した經驗をば、しつかりとこれに結んで整理し、生きた鄕土の姿と、精神をつかんで、その魂を培つていたゞきたい。

昭和十年四月一日

編者識す

高知讀本

目次

第一　高知縣……一
第二　建依別の國……七
第三　我等が高知市……一三
第四　伸び行く高知……二〇
第五　高知城……二七
第六　浦戸灣……三四
第七　高知埠頭……四一
第八　山内一豐公と夫人……四六

第九　野中兼山先生……五三
第十　五台山を巡る……六〇
第十一　土佐の勤王……六六
第十二　維新の志士……七三
第十三　憲政の發祥地……八〇
第十四　高知市役所……八六
第十五　高知測候所……九一
第十六　工場巡り……九八
第十七　高知放送局……一〇七
第十八　納税……一一三
第十九　年中行事……一二〇
第二十　鏡川と上水道……一二八
一、鏡川……一二八

二、上水道……一三二
第二十一　土佐の民謡・童謡……一三九
第二十二　名物あさり……一四五
第二十三　青年の修養……一五三
第二十四　公衆の衛生……一六〇
第二十五　美術と工藝……一六七
第二十六　社會施設……一七五
第二十七　名勝をたづねて……一八二
第二十八　市民の鑑……一八九
第二十九　土佐人……一九五
第三十　大高知市の建設と我等の使命……二〇二

目次をはり

高知讀本

第一　高知縣

位置地勢

四國の南半を占めて北に四國山脈を負ひ、南に黑潮の流れをひかへた我が高知縣は、東西に大きく半圓形を描いて、其の兩端の室戸・足摺の兩岬は遠く太平洋に突き出て土佐灣をいだき、まさに翼をひろげて南にかけらうとする鵬の姿と其勢を示してゐる。

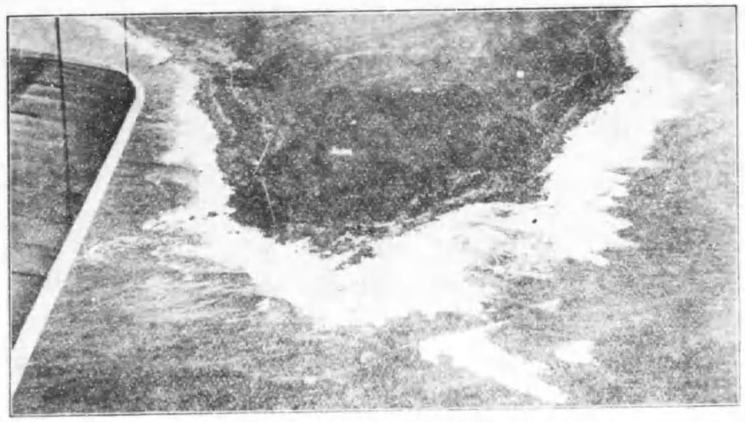
氣候と天産

高知市氣候
一月平均五・五度
八月平均二六・二度
年平均一五・六度
年雨量約二七〇〇ミリ

氣候は大體溫暖であつて、夏は南の涼しい海風にめぐまれて凌ぎ易く、冬も四國山脈の連山が寒い北西風をさへぎるので、割合に暖く、南部の平野では殆ど雪を見ることがない。雨量は我が國でも最も多い地方になつてゐる。こんな氣候であるから、「年に二度取る米もある。」と、うたはれてゐるのである。

米第一期作
三月下旬播種
四月下旬移植
七月下旬收穫
米第二期作
六月下旬播種
七月下旬移植
十月終より
十一月初收穫

産業



室戸岬上空より見たる室戸岬

山地は、到る所森林におほはれて木材薪炭の産出も夥しい。ここに魚梁瀬の大森林は、日本三大美林の一つに數へられてゐる程である。四國に唯一つの營林局が、高知市に設けられたのも、なるほどと、うなづかれる。

室戸岬や足摺岬に、赤榕・梧桐・蒲葵などの熱帶植物が繁茂してゐるのもこの氣候のためであり、内地では珍しい風景である。

古來、土佐の特産物は、「紙に珊瑚に鰹節。」と、いはれて、日本國中にその名が高い。本縣は楮・三椏の栽培に適するから、和紙の産額は我が國第一位を占め、いはゆる土佐半紙として知られてゐる。高知市及び伊野町はその製造の中心地である。

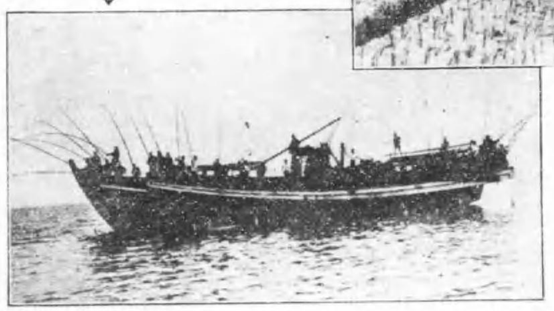
珊瑚の採取地
今までは五島（長崎縣）臺灣で、將來は見込が少ない。新しいのは鹿兒島縣大島附近で、有望。

足摺岬

珊瑚は土佐名産の第一といつてもよい位で、高知市内では盛にその加工が行はれてゐるが、近年この産額が著しく減少したのは、甚だ殘念なことである。

四百キロメートルにわたる長い海岸線を黑潮に洗はれる本縣は、到る所に漁港があつて、水産物の産額が極めて多い。漁獲物では鰤・鰯・鯖・鰺・鰹・鮪などが主なもので、製造物としては節類・蒲鉾・乾魚などが多い。ここに鰹節は古

年に二度とる米（高知市附近）→



黒潮たぎる土佐沖の勇ましい鰹つり→

來土佐節といつて、全國にその名をとゞろかせてゐる。製造は主に高岡・幡多兩郡に行はれ、宇佐・清水などはその中心地である。

尙近年著しく發達したものに園藝がある。中でも果物・野菜の促成栽培は、海岸地方の砂地を利用して栽培するものが多く、季節はづれに早く收穫して、いち早く阪神地方をはじめその他にまでも移出してゐる。

本縣は山地が多く、其の上中央こわりあひに遠くへだたつてゐるので、古來交通は不便であつた。港は多く、海運は相當に發達してゐたが、鐵道にめぐまれないことは、ここに甚だしく、現在わづかに、須崎・豐永間の省線と、後免・安藝間の高知鐵道、後免・伊野間の土佐電氣鐵道とがあるだけである。しかし道路の發達とその立派なことは、縣外客の誰もが驚くほどである。近年自動車はいちじるしく發達して、陸上交通の不便をおぎなつてゐる。

今や、縣民が多年待ちに待つた土讃線は、すでに開通することゝなり、浦戸灣の修築工事も着々として進み、省營バスは各地に開通して、本縣交通の面目はまさに一新されやうとしてゐる。

西瓜の出盛り

高知・大阪間に定期航空路の開かれるのも、あまり遠いことではあるまい。

住民

本縣は面積約七千百平方キロメートル。人口は七十二萬餘で、年々の增加は約八千人である。一平方キロメートルの人口は約百人で、これを內地の平均人口百七十五人に比較すると、まだ大分少い。

我等土佐人は明るい天地、豪壯な海岸などの影響をうけて、淡白であり、快活であり、質實剛健の氣風があつて、古來多くの偉人を出した。ことに明治維新に際して薩・長・土・肥とならび稱せられたことは、我々の誇とするところである。

然し、これまで本縣の實狀が、あまりにも縣外人に知られることの少なかつたことは、交通不便の結果とはいへ、實に殘念なことであつた。しかし、一度高知に來られた人々は、誰でも想像したにまさつてよい土地であることに驚くといふことである。

土佐の古名

第二 建依別の國

高知縣はもとトサの國といひ、上古は土左・都佐などの文字をあてたが、平安時代以後は土佐の字にきまつた。さらに神代にさかのぼると、建依別とよばれた。これは雄々しいますらをの國といふ意味ださうで、土佐人は太古から質實剛健の氣風に富んで居たと見られる。けれども都をはなれた遠國であるから、文化の度も遲れてゐたであらうし、それに太古のことは記錄もないので、くはしいことはわからない。今でも朝倉や岡豐などに、大きな古墳がのこつて居り、先年發見された佐古の龍河洞の穴居の跡や土器なども、珍らしいものであるが、遺憾ながらこれ等の由緒も中々

古代の文化

流人

國幣中社　土佐神社

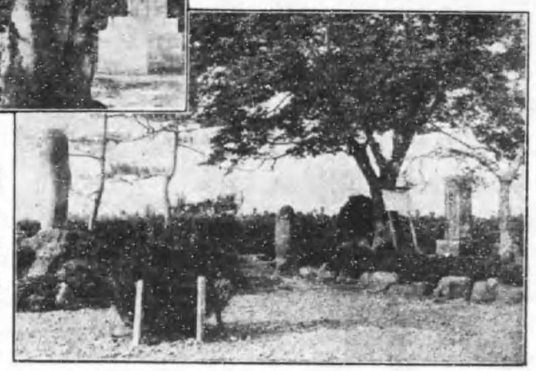
わからぬ。

然し一宮の土佐神社は、第二十一代雄略天皇の御代の創立で、今から約千四百八十年前、ほゞ伊勢の外宮と時を同じうし、又長岡郡國府の國分寺、五臺山の竹林寺其他五六のお寺が、奈良時代聖武天皇の御代に建てられた。さらに平安時代の初めに、弘法大師が四國八十八箇所中、十六箇寺の札所を土佐に開いたことなどで、次第に人口も増加し文化も進んだことがうかゞはれる。

一方土佐は交通不便な遠國であると

←跡遺の公親高原菅

土佐國府の跡↓



ころから、重い罪人を流す國と定められて居た。平安時代から鎌倉時代へかけて、名の聞えた流人だけでも五十名をこえて居る。中にも香美郡德王寺におはした池田親王、潮江の高見に居た菅公の長子高視、香美郡佐古の紀夏井、長岡郡介良の源希義、幡多郡の白田川に遷され給うた土御門上皇・尊良親王などは有名である。又平家滅亡の時に、安德天皇が屋島から御遷幸あつたとの傳説もあり、その外にも平氏の末孫だといふ家が所々にある。これ等の都人やそ

の子孫が上佐人に交つて、文化を進め、又土佐人の性質に大きい影響をのこしたことは想像される。

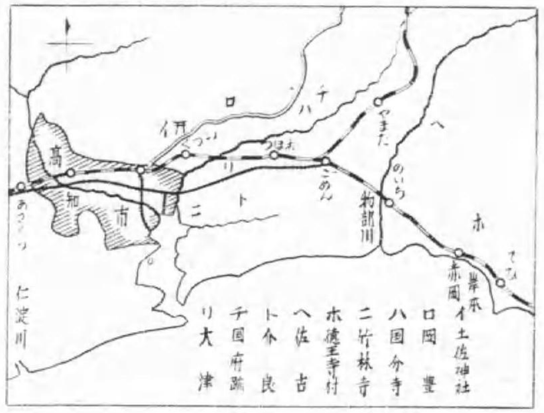
けはしい山や荒い海が感化を與へた上に、右に述べた流人の影響などが加はつて、剛健な、負けじ魂の土佐人を造つたものであらう。

ところがこの武骨な建依別の國が、早く天下に知られたのは、かへつて優美な都人、紀貫之の著書土佐日記によるのである。貫之は今を去る一千餘年の昔、土佐の國司に任ぜられ、長岡郡比江の國府に居てこの國を治めた。役目がすんで京都に歸る途中に、書きとめた旅行記が卽ち土佐日記で、文章が非常にうるはしいばかりでなく、我國文學史上に價値の高い名著であり、又當時の地理・風俗を知る上にも貴重な書物である。

今の長岡郡大津から船に乘つて、「浦戸をさして漕ぎ出づ。」とい

土佐日記

ふあたりから、當時の浦戸灣一帶の地理を、今の有樣と比較すると面白い。又赤岡・岸本あたりの海岸の景色の美しさを述べて、「船は宇多の松原の沖合にさしかゝつた。幾千年を經たかと思はれる無數の老松の根もとに、白浪がさら〳〵と打寄せ、その松の枝毎に、眞白い鶴が遊んで居る。あまりの美しさに口すさんだ…」と、作者の和歌を記したところなどは、土佐人には殊になつかしい所である。



また、それから四百年を經た吉野・室町の頃には、五臺山の吸江庵を開いた夢窓國師や、その高弟義堂・絕海二人の土佐人が、京都五山の文學

者として、天下第一の名譽を博したことなども、土佐の文化の花といつてよからう。

即ち建依別の國といつても、單なる武勇一点ばりではなかつたのである。彼の大高坂松王丸の忠烈や、後の長宗我部元親公が岡豐の小領主から起つて四國を平定し、豐太閤の天下の大軍を向ふにまはして、容易に屈しなかつた武勇や、近くは幕末維新の際に幾多の偉人傑士を出したことなども、すべて建依別の兒の熱い血潮の底に、これらの文化の色彩が流れてゐることを忘れてはならぬ。

今は交通の便が開け、文化も益々進んで、もはや昔のやうな土佐人の特色は、よほどみとめ難くなつた。久しぶりに他鄕から歸つた土佐人は、高知市の大都會じみて來たのに驚いて居る。それもよいが、どうかいつまでも、剛健武勇な建依別の氣風は失ひたくないものである。

結び

（長曾我部とも書く）

第三　我等が高知市

鄕土のなつかしさ

「山の中でも三軒家でも、住めば都よ、我が里よ。」

住みなれた鄕土をしたふことは人情の常である。

我等が鄕土高知市は高知縣のほゞ中央に位し、政治・交通・産業・經濟の中心地であつて、本縣文化の源をなしてゐる。

高知市役所の位置　東經一三三度三分　北緯三三度三分

面積三〇・六平方キロメートル、戸數二萬五千、人口十萬七千餘、正に四國第一の都會である。

その上に南國特有の明るい天地と、溫和な氣候に惠まれて、全くの樂土といつてよい。

この地に住みなれた我等の祖先は、質實であり、剛健であつて、

高知市の發達

天守閣よりの眺め

かゞやかしい歴史と教訓を殘してゐるし、近くは維新回天の事業にも亦いろ〳〵の偉勳をあらはしてゐる。

我等はこの光ある高知市を鄕土とすることに、一種の誇をさへ感ずるのである。

高知市は鏡川の沖積平野に發達した都會であつて、水利の便はいたつてよく、南北は山に限られて狹いが西の方は僅かに旺内坂を距てゝ仁淀川の流域につらなり、東は廣く香長の平野にひらけて、物部川の流域につらなつてゐる。東南の一角は浦戸

灣に接して、高知港をひかへ、海路をもつて阪神地方に連絡してゐる。

まことに地の利を得たものといはなければならない。その上に山内家二十四萬石の城下街として、二百七十年。明治の御代となつてからも縣廳の所在地として、あらゆる方面の中心地となつたといふことが、今日のやうな高知市の繁榮を見る原因となつたのである。

市況の繁榮は日に〳〵新しく、文化の發展はまことに目まぐるしいほどである。

高知市の大觀

今、市中の形勢を大觀しやうとすれば、遠く南方の鷲尾山上よりするのもよいが、近くお城の天守閣（咸臨閣）より見おろすのも面白い。こゝはかしこくも、大正・今上兩天皇が皇太子として行啓の節、御展望あそばされたその跡である。

お城のめぐり

眼下を見おろすと、お堀をめぐつて、高知縣廳・市役所・縣會議事堂・裁判所・營林局・聯隊區司令部など多くの官公衙をはじめ、圖書館・公會堂・農業會館・武德殿などが、いらかを交へてたち並んでゐる。

學校街

警察署・郵便局・憲兵分隊・稅務署なども程近い。

お城を中心として、西より北、東にかけては、學校街といつてもよい程で、高知高等學校・師範學校をはじめとして、多くの男女中等學校・盲啞學校などがある。教育會館も森かげに見えてゐる。

盛り場

市中を十文字に走つてゐる土佐電氣鐵道に沿ふた大通は、市內交通の幹線であつて、商業の活氣いちじるしく、ことに播磨屋橋

東部一帶

の交叉點は車馬の往來織るやうである。この附近一帶は高知市第一の盛り場であつて、大商店・會社・銀行・映畫館などが軒をつらねて日夜雜沓してゐる。

播磨屋橋附近（京町）

市の東部は新發展の土地として餘地が多い。堀河にそふて青柳橋にいたる海岸通は、高知埠頭の內港として港街の氣分がみなぎつてゐる。土佐電氣鐵道の支線はこゝに通じ、中央卸賣市場は四つ橋の近くにある。瓦斯會社をはじめとして工場多く、將來有望な工場地帶となつてゐる。はるかに白煙のたなびくは塵芥燒却場である。

潮江方面

市の南部潮江方面は、高知埠頭に通ずる大玄關で、浦戸灣の修

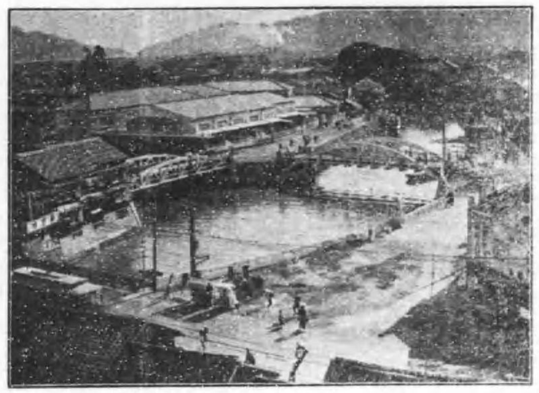
北部一帶

築をひかへて最近の發展ことにいちじるしく、女子師節學校をはじめ二三の中等學校が相ならんでゐる。

セメント工場の白煙は孕門一帶をおほふてゐる。附近に火力發電所もあれば曹達工場もあり、工場地帶としての發展が豫想されてゐる。

江の口川以北の地は、高知驛を中心として日ざましい發展ぶりで、高知放送局・縣營變電所・赤十字病院など目だつて見える。

小高坂方面は最も閑靜な住宅地とし新屋敷・寶町・愛宕町などはやがて北の山手に續きさうに見える。



四つ橋と中央卸賣市場

て北へ北へと發展してゐる。

旭方面

市の西部旭方面は、水利の便がよくてつとに工場地帶となり、片倉製絲工場をはじめ、多くの製紙工場がある。縣營の工業試驗所や繭の檢定所なども設けられてゐる。

水源地も一つの偉觀であり、旭驛はこの方面發達に大きな役割をもつてゐる。

神社佛閣

神社では先づ一番に、別格官幣社山内神社をあげなければならぬ。縣社の潮江の天滿宮や、山田町の八幡宮・藤並神社をはじめ、多くの神社があつて、いづれも市民崇敬の中心になつてゐる。

寺院もあれば教會もある、それ〴〵壇家や信者の人達の宗教心を培つてゐる。就中、江の口の安樂寺は四國第三十番の札所として名高い。

市の近郊

市の近郊には風光明媚の浦戸灣や、月の名所の柱濱、海水浴場の種崎千松公園、鹿の居る五臺山など一日の清遊に適する所が少

郷土愛

くない。

かうして天守閣の欄干によつて、眼のあたり我等の郷土高知市の伸び行く姿を眺めたとき、誰か一種のなつかしさと力強さを覺えないものがあらうか。

このなつかしさこそは、郷土を愛する精神であり、この力強さこそは、やがて郷土に對する責任感であり、又よりよき郷土の建設への原動力となるのである。

第四　伸び行く高知

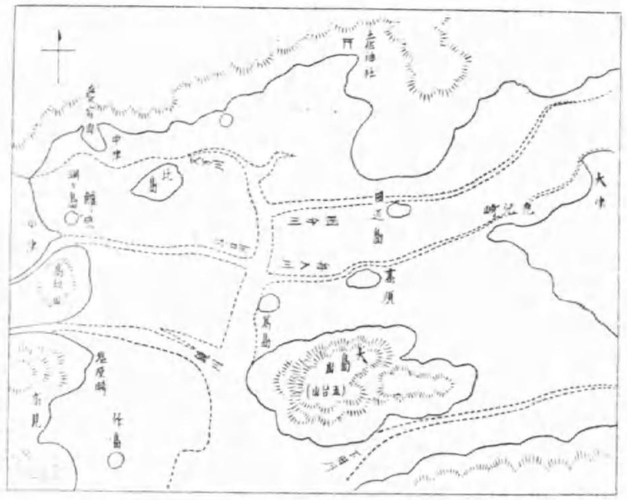
次郎は或日曜日に伯父さんの家へ遊びに行つた。伯父さんは市役所にお勤めである。今しがた何かのお調べをなさつてゐられたのであらう、机の上には高知市の地圖やその他色々の書物がならべてあつた。次郎は地圖をじつと見つめてゐたが、やがて、

「伯父さん、高知市は四國一だと聞きましたがほんたうでせうか。」

「さうだ。人口においては十一萬に近くたしか第一だ。」

「第二は。」

「第二は德島市で九萬五千人、第三は松山市で八萬八千人、次は高松で八萬二千人といふ順序になつてゐる。しかし次郎、この立派な高知市も大昔は海の底であつたやうだよ。」



土佐日記時代の高知附近推測圖

次郎は不思議さうに頭をかたむけた。

伯父さんは本箱から一枚の地圖をとりだして、

紀貫之時代

「これをごらん。此の地圖は、土佐日記から考へて書いた高知附近の想像圖だ。これで見るとこの邊一帶は海の底で、この五臺山などは一つの離島だつた。行基が竹林寺をひらいた時も、その後空海時代空海が再び建てなほした時も、海中に秀でた美しい峯であつたのだ。鏡川も川口がもとは旭小學校の附近であつたと思はれる。」

吉野時代

「それでは、今の繁華な街の大部分は海の底だつたのですか。」

「さうだ。その後永い年月の間に、鏡川や國分川などの土や砂のために埋められ、又土地も少しづつ高まつて、吉野時代には、鏡川の下流に、今の白鷺洲のやうな三角洲ができて、大高坂山を中心に今の上街から高知街あたりは、水の上に現はれてゐたらしい。

長宗我部時代

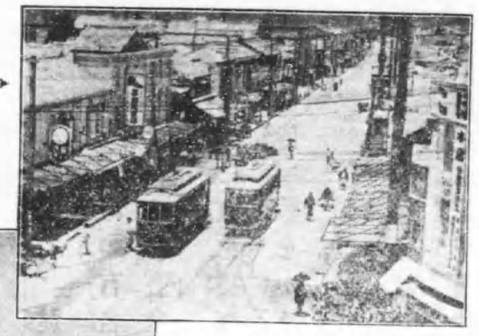
それから下つて、今から三百五十年程前に、長宗我部氏が朝倉を攻めてのかへり、今の本町邊で兎狩をしたといふから、其の時代には土地の廣さも增し、高い所には草木も茂り、低い所は池や沼となつて鳧や鴨が遊んでゐたのにちがひない。そして大高坂山が低い土地の中に高くつきたつてゐたものだらう。長宗我部元親公はその要害をたのんでこの山に城を築いたが、度々洪水のためになやまされて、遂に浦戸に城をかへたといふことだ。

山内一豐公入國當時

やがて、あの有名な關ケ原の戰があつて、慶長六年（およそ三百三十年前）山内一豐公が土佐の國主となつて入國せられ、この大高坂山に城を築き、鏡川の岸に堤防をつくつて水害をふせぎ、城下に侍屋敷をかまへ、附近の商人や鄕民を移り住ませたのが、此の高知市のはじまりだ。それで、我々市民は開市の恩人、山内一豐公を忘れてはならぬ。

それから第十五代豐範公に至るまで、凡二百七十年の間、城下

明治の御代になつて



現在の播磨屋橋→

明治初年の播磨屋橋→

町として發達して來た。其の間三回程の大火災と、二回の大震災があつて家や人を澤山失つたが、當時の人々はよく困難をしのび、市街の復興に努力して來た。

明治四年からは四民（士・農・工・商）が平等になつて、町民は全く自由に住居もし、營業もできることゝなつた。翌年は郵便局がおかれ、十一年には電信も通じ、三十七年から本町を電車が走るやうになつて、四十年には電話も通じた。

又近く大正十三年から汽車の

接續町村の合併

汽笛も響くやうになり、播磨屋橋の大通りも出來た。

昭和七年には高知放送局が出來て、家々にラヂオの聲も聞えだした。

「市になつたのは何時頃ですか。」

「あゝさう、市制をしいたのは明治二十二年で、當時の高知市は東は新町・農人町から、西は五丁目まで、南は鏡川、北は江の口川を限つた人口僅に三萬位の小さい市であつたが、その後市街の發達につれて、人口は增し、人家は段々と市外へ伸びて行くので、大正六年には江の口町を、十四年には旭村と、鴨田村の鏡川以北の土地を、十五年には下知町と潮江村を、近く昭和二年には小

飛行機上より見下したる高知城附近

今後の高知市

高坂村を合せて、現在、四國一をほこる高知市となつたわけだ。」

「ずゐぶん變つたものですね。今後の高知はどうなつて行くのでせうか。」

「さうだね、本市は四國南岸の良港をひかへ、港灣の修築工事も追々と進みつゝあるので、阪神方面との海上交通は一層盛になり、昭和十年には土讃線も開通して、陸上の交通も大層便利になるし、又都市計畫もだん〳〵と實現せられつゝあるので、今後益々發達することはうたがひない。

お前達青少年の者は、商業に、工業に、或は農業に、其他色々の方面に伸び行く高知市民として、一段の奮發をしてもらはねばならぬよ。」

折しも正午を告げる號砲が響き渡つた。

やがて次郎はいとまをつげて歸途についた。

藤並神社

追手門

第五　高知城

まづ大鳥居をくぐつて、藩祖山内一豐公夫妻と歷代の藩主を祀る藤並神社に詣でた。杉の林に圍まれた宮居は神々しく、社頭一豐公の銅像のもとでは、公の武勇と夫人のいさをしを仰がずには居られぬ。追手門の前にくると、お父さんは、

「高知のお城には四方に一つづつこんな城門があつたのだ。あの階上の東に見える穴は銃眼だね。又こんなに入口が横向きになつて、石垣をコの字形に築いたのは、城門へ押寄せる敵を、後や横からねらひ討つ計略なのだ。」

とおつしやつた。門を入ると、先づ板垣伯の銅像が目をひく。右手をさしのべて、「さめよ土佐人。」と呼びかけて居られる樣な氣が

する。石段の左側に椋の大木がある。黄ばんだ葉がひら〳〵と降りかゝる。

「椋や榎は籠城の用意に植ゑたものらしいね。若葉は煮てたべたり、茶の代りにしたり、實は食用、木は薪、皮は藥にもなるさうだ。箭竹の多いのも同じ意味で植ゑたものだ。」

高知城追手門

ラヂオ塔の前に出た。昔はこゝを杉の壇といつて、杉の大木が生ひ茂り、晝も尙暗い所で、時々兎や狸も出たといふ。花壇わきのベンチに腰を下す。

花壇

模様の形に區切られた芝生の間に、美しい草花が咲きみちてゐる。池には噴水があり、緋鯉が泳いで居る。

三の丸

三の丸へ上る。廣々とした芝生の地は、その昔は大書院の建物のあつた所で、正月や節供その他の會合などに使用されたとのことである。測候所の風力計がゆるり〳〵と廻つて居る。午後の公園はのどかである。

二の丸

さらに二の丸へ上る。藩主の起居せられた建物のあつた所、此處に容堂公の銅像を建てたのもその爲だらう。ベンチに腰をかけて、天守閣を仰ぎながら、お父さんからお話をうかゞつた。

「慶長六年、今から三百數十年の昔、一豐公が土佐に入國すると共に、百々越前守に命じて城を築かせた。越前守は名高い築城家である上に、自ら鍬をとつて働いたので、部下の役人も一生懸命子供までが袂に礫を入れて運んだ。それで工事はどし〳〵はかどつて、慶長八年には、早くも一豐公が入城せられたのだ。このお城は、周圍に内堀外堀までもつくつてあつたのだよ。」

堀

本丸

懷德館

「蓮の植わつて居るのは、内堀でせう。」

「さうだ。そして外堀は、南に鏡川北は江の口川を利用し、東は堀詰、西は升形の通を南北に堀り通してあつたのだ。外堀から内は侍屋敷が建ちならんで、一般の人々の住居は勿論、下駄ばきでの通行をも禁ぜられてゐたさうだ。」

「ずゐぶん嚴重でしたね。このお城はその時のものですか。」

「いやちがふ。八代藩主豐敷公の時、享保十二年に、越前町に火事が起り、折からのはげしい西風に、火は遂にお城の大部分を燒いてしまつた。その後再築されて、現在の天守閣はその時のだから、約百九十年前の建物だね。」

渡廊下をぬけて本丸に上り、懷德館の陳列品を見物する。海援隊の艦側につけてあつた三葉柏の紋章、藩主使用の駕籠などは目をひき、その外甲冑・刀劍・美術品など參考品が少くない。

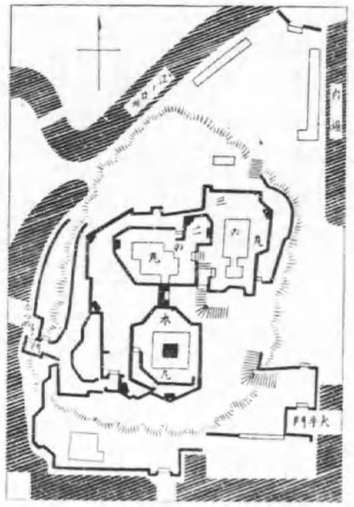
天守閣

懷德館の上が六階の咸臨閣、卽ち昔の天守閣だ。こゝへ上つて四方を眺めると、近代都市の高知市が眼下に展開されて、藩政時代から急に昭和の御代に生れかはつた氣がする。文化をほこり顏の官廳・會社・學校などの洋館や、神社・佛閣・教會堂・大商店などがまづ目につく。かうして見ると、市中にも案外樹木の多いのに驚く。

「開市以來三百數十年、伸びに伸んで、四國一の大都市になつたことを思ふと感慨が深いね。」

「それでは、山内公より前のお城は。」

「今それを話さうと思つて居たところだ。この山に最初に城を築



高知城略圖

大高坂松王丸

いたのは、吉野朝の忠臣大高坂松王丸だ。そして後醍醐天皇の皇子滿良親王を奉じて義兵を擧げ、足利方をなやましたけれども、遂に城が陷つて、松王丸は惜しくも戰死したといふことだ。」

「しかし、大忠臣がまづ城を築いたのは、めでたい事ですね。」

「まつたくさうだ。そしてこの忠臣の靈は、すぐこの下の市役所の庭の、あの大銀杏のそばに、大高坂神社として祀られて居るのだ。」

長宗我部元親

「長宗我部元親公もこゝに居たでせうね。」

「さう〳〵。吉野時代から二百數十年たつた戰國の頃に、元親公がやはりこゝに城を築いた。しかし三年ばかりで浦戸へ城がへした。その後山内氏がこゝへ移つて、今日の高知市が始まつたわけだ。」

梅の段

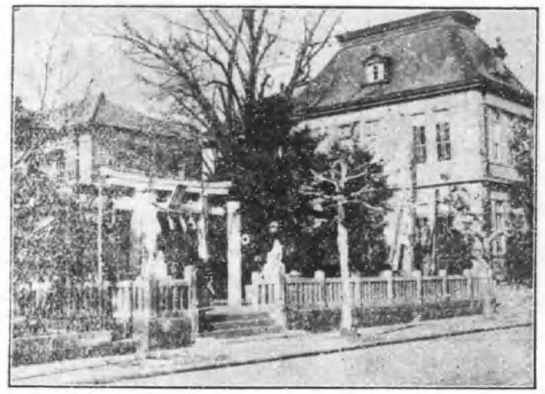
日も大部かたむいた。黑鐵門をくぐり、梅の段へ下りて北へまはる。梅の名木勇獅子の前を通る。こゝから小高坂へのぬけ穴があつたといふ傳説もあるが、あてにはならぬさうだ。石段を下りてすべり山へ出た。

「こゝは證文倉のあつた所で、下の運動場は、米倉や武器倉のあとだ。あの道を行きつめた所に北門があつたさうだ。」

再び追手門へもどつて、すぐ南側の商品陳列館にはいり、妹へのみやげに長尾鷄のおもちやを買つた。公會堂の大時計ははや四時に近い。

これから大高坂神社に詣でて歸るこ

商品陳列館



大高坂神社

とにしよう。

桂濱

第六　浦戸灣

桂濱

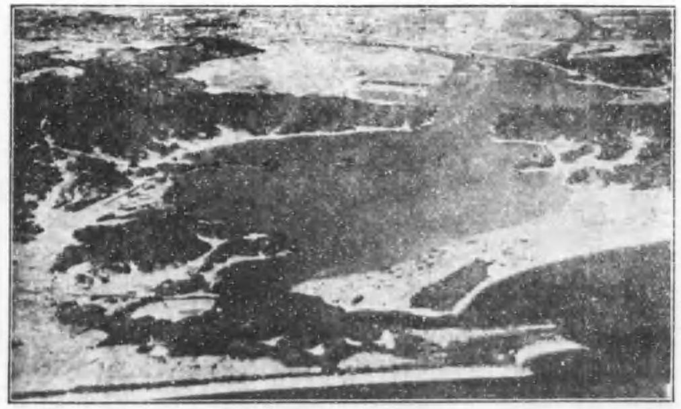
さあ、船がいよ〳〵浦戸灣へはいりますよ。朝霧を破つて港入りするのはほんとによい氣持ですね。

左に見える岬の上に、小さい鳥居がありませう。あれは龍王神社で、あれからこちへ一たいの濱邊を桂濱といふのです。海の荒れる時は、怒濤岩をかみ、しぶきは天をついて、實に壯觀です。だが、それよりも美しい眺めは月の夜景です。中秋の名月が水平線上にのぼつて、廣々と

した太平洋上にをどる金波銀波の美觀は、實に「月の桂濱」の名に恥ぢないのです。あの山の中腹、桂濱を一眸にをさめる所に、

見よや見よ、みな月のみの桂濱、
海の面より出づる月影。

といふ、大町桂月先生の記念碑が建つて居るのです。こちらの岬の上、松の木の間に、坂本龍馬先生の銅像が見えませう。像の高さは五メートル餘、悠然と太平洋の彼方を望んで立つ姿には私ども土佐の若者は、何ともいへない心強さと、はかり知られぬ深い教にう



機上より見た浦戸灣

たれるのです。

船が大分廻りましたね。右舷の方を御覽なさい。美しい松原でせう。これが種崎の千松公園です。夏はこゝが海水浴場になるのです。

種崎

兩岸がせまるところ、これが浦戸灣の入口です。この兩岸に三里・浦戸・御壁瀬などの村々があるので、その交通は、今あの小灣の方へはいつて行く巡航船の便によることが多いわけです。なほ、陸路には、高知市を起點として、東西兩岸にそれ〴〵バスが開通して、交通をたすけて居るのです。

灣内の交通

左の今巡航船の着いた所が、浦戸の港です。これが卽ち昔の浦戸港で、鎌倉時代にも名があらはれて居り、長宗我部元親公もこの港を利用する爲に、あの山上に城を築きました。太閤の朝鮮征伐に、土佐の水軍が出征したのもこの港からです。慶長元年に、

浦戸

長宗我部元親公

イスパニアの船が漂流して來たのもこの港です。元親公の子、盛親公が關ヶ原の役に西軍にくみした爲に、國を奪はれてからはさびれてしまつて、山上の城趾が、いたづらに涙を誘ふのみです。

長宗我部氏は代々高知から十餘キロメートル東の、岡豐の小領主でありました。元親公の當時は戰國の最中で、土佐にも七守護をはじめ、多くの豪族が各地に城をかまへて、戰亂のたえまない世であつたが、公は十五年の間に國内を平定し、更に僅か十年の間に、四國全體を討ち從へたのでありました。太閤の天下平定の大軍にはかなはなかつたが、とにかく土佐魂を天下に示した、痛快な英雄でありました。それから太閤の九州征伐に從軍して、長子の信親公が豐後の戸次川で戰死しましたが、この時も非常な奮戰で、土佐武士の勇名は、敵方の薩摩でさへも、永く語りぐさに傳へたと申しますし、又小田原の北條征伐にも、先程述べた朝鮮

征伐にも、水軍を率ゐて功を立て、海國土佐の意氣を示したのです。

長宗我部元親公の墓

公は劍をとつての英雄であつたばかりでなく、尊王の心をあらはし、又法令を整へ、學問をすゝめるなど民政上のてがらも大きかつたので、その影響が維新の際までも遺つて居ました。それで先年正三位を追贈されたのです。

公が初陣の武者ぶりに、敵味方を驚かした戸の本の古戰場も、三百年の苔むした墓も、菩提寺の雪蹊寺も、すぐこの山の向ふ側、長濱町にあります。

長濱

雪蹊寺は弘法大師の創めた寺で、四國八十八箇所第三十三番の

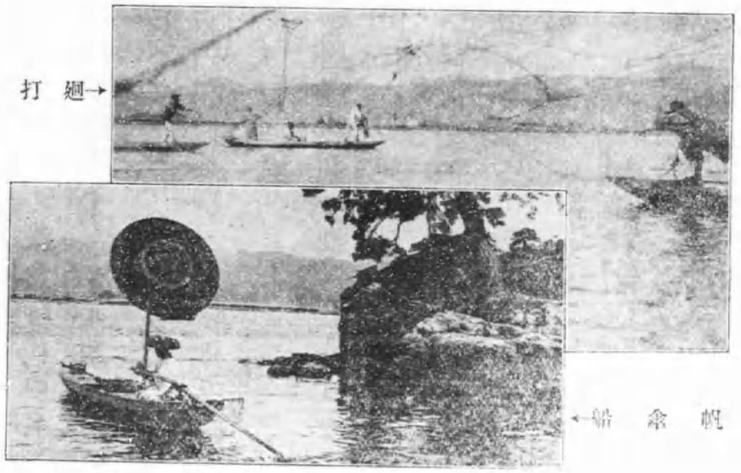
靈場であり、鎌倉時代の名工運慶・湛慶作の佛像などの國寶が安置されて居ます。又元親公の頃の住職天室は、南學を谷時中先生に傳へて、野中兼山・小倉三省・山崎闇齋等の偉人を出した功勞者です。時中先生はあの衣が島の向ふの瀬戸の人で、墓も遺つて居るのです。

灣内の風景

庭師の刈り揃へたやうな美しい島でせう。これは玉島、又は巢山といつて、烏のねぐらを求める島です。先ほど鳥居のある小さい美しい島もありましたが、あれは狹島で、いづれも灣内に風景の美を添へて居るのです。元親公の代に、このあたりで鯨をしとめて、丸鯨のまゝ太閤に献上し、「これは前代未聞の大土産だ。」とさすがの太閤が驚いたといふ痛快な話が、土佐物語といふ古い書物にのつて居るのを思出します。

その先の兩岸の山がせまつた所から内を、孕と申しますが、春は

名物



兩岸一帶の山に山櫻が咲きほこつて、これ亦、灣内の一美觀です。

灣内は絶好の遊漁場で、御覽の通り澤山の釣舟が居りませう。漁法の一つに廻打ちといふのがあります。網舟六艘から十艘位が、一團となつて圓陣を作り、順次に網を投入れるのですが、二十尋から三十尋の網が、空に大きい輪をゑがいて、次から次へ、ざぶん〳〵と投入れられる有樣は、實に見事なものです。

又帆傘といつて、釣舟が蛇の目傘を帆に利用して、夕陽の西に傾く頃、列をなして靜かにはいつて來る風情も、ほんとにのどかな眺めです。

船がまた廻りました。そら、ずつと向ふにお城が見えるでせう。あそこが高知の市街です。長話をして居る間に、さあ、いよ〳〵棧橋へ着きますよ。

高知市の發達と高知埠頭

高知埠頭と航路

第七 高知埠頭

高知市の發達した理由にはいろ〳〵あらうが、浦戸灣をひかへ、高知埠頭をもつてゐるといふ事が、最も重要な原因の一つであると思ふ。

高知埠頭は、市の南東潮江に設けてあつて浦戸灣一帶を扼し、土佐電氣鐵道によつて、高知驛其他に連絡してゐる。

市の海岸通は、其貨物の倉庫地帶であり、又小型汽船、帆船等の發着地として、重要な役割をもつてゐる。

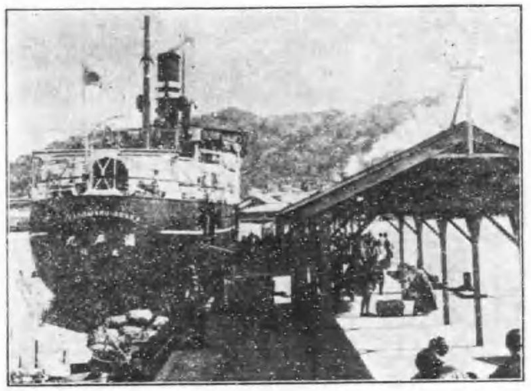
土佐商船株式會社の汽船はこの港を起點として、

大阪高知線…阪神航路……神戸へ直航して大阪

高知細島線…西沿岸航路…沿岸各地に寄港して細島

高知甲浦線…東沿岸航路…沿岸各地に寄港して大阪

の三定期航路がある。



高知桟橋

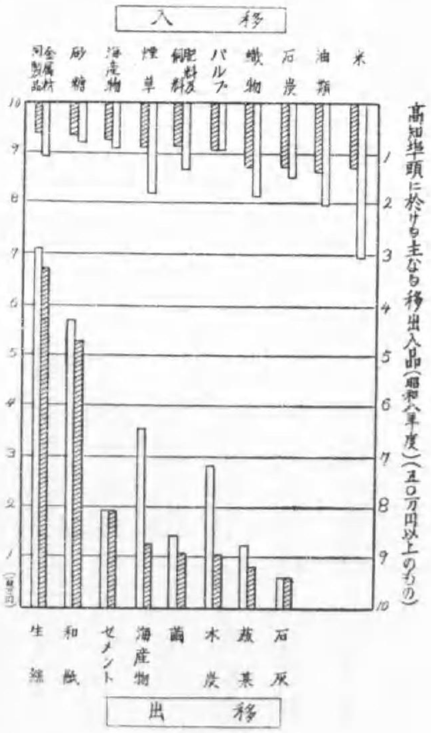
大阪高知間の航路が重要なことは勿論であるが、高知細島線もまた、幡多郡宿毛港より遠く宮崎縣の細島まで延長して、九州方

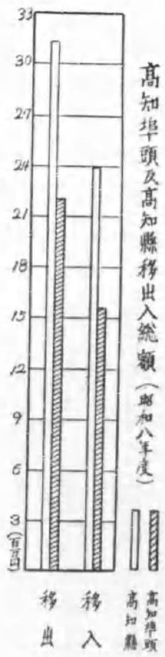
面との聯絡をとり、縣外各地との間に絶えず、物資や旅客の輸送につとめてゐる。

移出入貨物と乘客

高知埠頭による移出入貨物は、年額約三千六百萬圓にのぼり、（昭和八年度）本縣移出入總額の約三分の二を占め、乘客は約十八萬人に及んでゐる。

これによつて、こ





港の良否

の埠頭が高知縣にとつて、如何に重要であるかといふことを知るばかりでなく、この夥しい貨物を呑吐する我高知市にとつては、離れることのできない生命線であるといふことができやう。

從つて、その港の良否は直ちに我高知市の消長に關するものである。殘念な事には、浦戸灣は天然の良港灣を形づくつてゐるけれども、港口が狹く、灣内の水淺く、大型汽船の出入は不便である。定期船でさへ風浪の際は缺航したり、須崎港へ避難したりすることがめづらしくない。

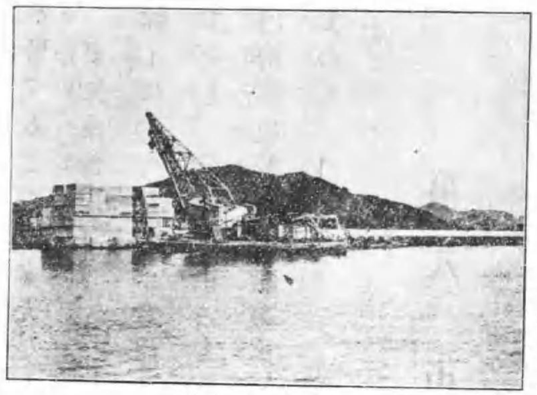
航海になれない外來の遊客はもとより、婦女子等とかくに航行をいとふといふありさまで、高知市の發展にも影響することが多いので、今までも幾度かこれが修築を試みたが、いづれも思はしき結果を得なかつた。徹底的な修築計畫や、設備の改善は實に、市民が多年熱望するところであつた。

重要港灣の指定

將來の高知埠頭

昭和二年にいたつて漸く浦戸灣は、四國南岸における重要港灣の指定を受け、多額の國費をもつて昭和四年より、防波堤、防砂堤、岸壁、浚渫等これが根本的の改築に着手したのである。

工事は次第に進んで、港内の浚渫もはかどり、今では岸壁の一部まで出來上つてゐる。



工事中の岸壁

昭和十五年竣工のあかつきには、港口は三千噸級の汽船が、自由に、出入することとなり、岸壁には二千噸から三千噸級の汽船四隻を同時によこづけすることができる。

又灣内横濱一帶の水面は、近く開かれようとする航空路大阪高

知線の發着地として活氣を呈するだらうし、やがて土讃線開通後の高知驛と相まつて、南北海陸の兩表玄關として、本市の發展に影響するところ多大なものであらう。

海岸通の活氣

高知市海岸通は、内港として埠頭にならぶ重要さをもつてゐる。陸上にたちならぶ倉庫と林のやうな帆柱は、相對して港の壯觀をていし、荷物を積みおろしする役夫のかけ聲は、たえず發着する内海巡航船や漁船のエンヂンのひびきに和して、活氣にみちてゐる。

生地

第八　山内一豐公と夫人

山内一豐公は天文十四年尾張國に生れた。父は同國岩倉の城主織田信安の家老であつたが、公がまだ少年の頃に、父は戰死し、主家も亡びたので、一家は所々に流浪して、公は非常な困苦の中に成長した。

初陣の功名

それから十餘年もたつてからのこと、織田信長が越前の朝倉義景を攻めた時、公は織田勢に從軍して居た。元龜二年四月二十五日、戰敗れて北へ退却する朝倉勢の中に、三段崎勘右衞門といふ剛の者があつて、金ケ崎附近の首坂といふ所にふみとどまり、しきりに强弓をしぼつては、追擊する織田勢を射たふした。むざんや公もその一矢で、左の頰から右の奥齒のあたりまで、見事に射とほされてしまつた。しかし剛氣の公はこの深手にも屈せず、二の矢をつがへんとする敵にをどりかゝり、引組んだまま谷底へころげ落ちた。かうしてさしもの强敵も、武運めでたき公の打ち取る所となつた。

ところへかけ下りて來た家來の五藤吉兵衞は、その深手に驚き、

氣を失はうとする公をはげまし〳〵、矢をくはへて引拔かうとあせつたが、どうしても拔けない。公は、

「かまはぬから顏をふまへて拔け。」といふ。吉兵衞は急いでわらぢを脫かうとしたが、

「そのまゝ〳〵。」といふので、わらぢのまゝ顏をふみつけて、力まかせに引拔いた。十三糎ほどもある大鏃であつたといふ。

一　豐公の銅像

吉兵衞は主人を肩に引つかけて陣屋に歸り、勘右衞門の首を信長の實檢に供へた。これが公の初陣で、しかも目ざましい功名であつたのである。後度々の功によつて、北國街道の要地、近江國長濱を賜はり、四百石の領主に出世した。

夫人の內助

夫人は近江の淺井氏の家臣若宮喜助の女で、公に嫁したのは、公がまだ身分も低く、猪右衞門とよばれた時代であつた。それで暮しむきも至つて貧しく、桝の底をまないたに代用した程であつたといはれてゐるが、よく困苦をしのび、小身の夫をたすけて働いた。

名馬を買ふ

或時、家に歸つた公が、いつになくうち沈んだ樣子であつたから、夫人はそのわけをたづねたが、公は語らない。夫人はしひて、

「夫の身の上にかゝる事を、妻が知らないではすみません。どうぞお聞かせ下さいませ。」

「言つても仕方のない話だ。が實は今日、東國から良い馬を賣りに來た者がある。しかし自分どもには、とても買はれる價ではない。あつぱれ、あれ程の名馬を手に入れたら、功名手がらは心のまゝであらうものを、思へば殘念だ。」

「その馬の價は如何程でございますか。」

「黄金拾兩。」

夫人はしばらく考へて居たが、

「それだけのお金なら、差上げませう。」

と、立つて鏡ばこを取り出し、その底から金包を出してさゝげた。公は驚いて、

「これはどうした金か。日頃貧しい暮の中に、こんな大金を貯へて居ながら、だまつて居たのはどうしたわけか。」

「さやうでございます。これは私が當家へまゐる時に、『夫の一大事の時に使へ。』と、父からいたゞいたお金でございます。うはさに聞けば、

黄金拾兩をさゝげるところ

遠からず京都で馬ぞろへがあるとのこと、定めし、皆様は御自慢の馬にめしてお集りのことと存じます。あなたもその良い馬にめして、あつぱれ御出陣なさいませ。」

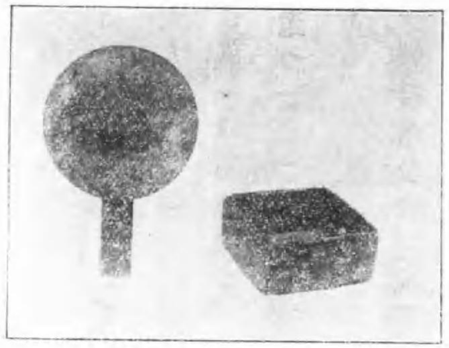
妻のまごころに感激した公は、あつく禮をのべ、喜び勇んでその馬を買ひもとめた。

やがて馬ぞろへの日となつて、この馬はたして主君信長の目にとまつた。

「あゝ良い馬だ。名馬、名馬、一たい誰の馬か。」

「山内猪右衛門の馬でございます。」

「小身ものの猪右衛門が、よくもかういふ良い馬をもとめたものだ。見上げた志の者、立派な武士よ。」



藤並神社寶物の鏡と桙

と信長はいたく感心した。これがまた、公の出世のいとぐちになつたのである。

關ヶ原役の功

後年關ヶ原の役にも、夫人の内助の功は大きいものであつた。その時公は、徳川家康にしたがつて、關東に出征中であつたが、石田方が關所をとざしたので、上方の騷ぎは東國へ聞えなかつた。夫人はいち早く、家來の者に、樣子を知らせる手紙を持たせ、別に萬一の用意にと、笠の紐により込んだ手紙まで添へて、關東に送つた。この第一報が、東軍の戰略の上に、非常に役立つたのである。

戰役後公は、遠州掛川六萬石から、一躍土佐二十餘萬石の大大名にあげられたもので、當時こんな大出世をした大名は、他には一人もなかつたのである。

遠いおもんばかり

第九　野中兼山先生

野中兼山先生が江戸からよこした手紙に、「土佐には居ない蛤を、お土産にもつて歸る。」とあつたので、樂しんで待つ友人もあつたが、船が浦戸へ入ると、蛤は全部、海へ投込んでしまつた。

兼山先生肖像

友人が驚いたら、先生は笑つて、

「君達だけへではない、子孫末代までへのお土産だ。」と言つた話がある。

又紀州から蜜蜂を買ひ求めて、土佐に繁殖させた話。この時は人夫が運搬の途中で、箱のふたをあけて見ようとしたら、皆逃げてしまつた。人夫は青くなつて歸つてきて、

「野根山を越える道で、翅音も聞えませぬ故、水に飢ゑたのかと心配して、ふたをあけましたら、逃げてしまひました。」

と、平蜘蛛のやうになつてわびた。先生は

「よい、よい。土佐の山中で繁殖したら、やがては捕つて飼ふ者も出來よう。」と笑つた。

兼山先生は山内一豐公の甥良明の子で、傳右衞門良繼といひ、二代藩主忠義公をたすけて奉行の職をつとめた。當時はもう天下太平のはじめではあつたが、戰國亂世の後をうけて産業は衰へ、風俗もみだれ、その上に長宗我部氏の舊臣等はまだ山内氏になつかず、藩の政治は甚だ憂ふべき時代であつたから、先生は、まづ

水利開墾

産業を興さうとせられた。大川に堰を築き、堀川を造らせて水利を起し、新田を開墾させて農業を盛にした。この新田の面積は、實に五千三百餘町（五千餘ヘクタール）で、土佐の米産額年十餘萬石（十万石は凡そ一萬八千餘竏）を增したといふ。物部川の山田堰・野市堰、仁淀川の鎌田堰・八田堰、舟入川・新川川などはその主なものである。

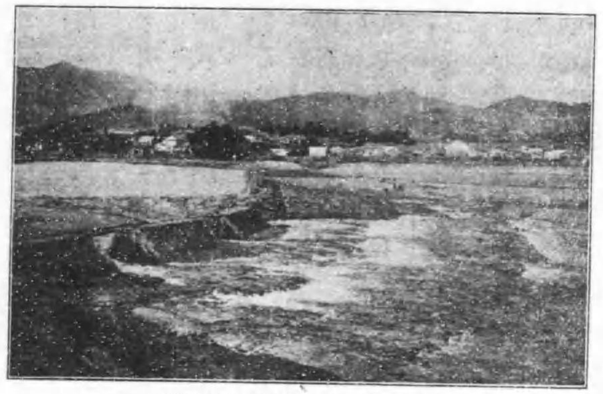
鄕士精勵

この開墾は、おもに長宗我部氏の舊臣にやらせて、その田地を所有させ、鄕士といふ階級の士に取り立てゝ、優遇したから、これまで新藩主になつかなかつた彼等も、從順な藩士になつた。

先生が、この土木事業に當つては、身は一萬石を領する重臣でありながら、握飯を腰にして、星のあしたから、露の夕まで熱心に指圖した。

或る年の暴風雨に、部下の役人であつた小倉少介（三省先生の父）が、工事中の物部川堤がきれはせぬかと、まだ夜の中に馬で

乘りつけた。心の中で「さすがの奉行も今朝はまだ來ては居られまい。」と思つたのに、瀧のやうな雨をあびながら、堤の上に立つ蓑笠の男がある。近づいてみると、すでに先生が巡視して居られるのであつた。



兼山先生の遺跡山田堰

或る年の春、工事場附近の草むらから兎が跳出した。一人の人夫が見つけたけれども、大勢が知つて、追かけなどすると、工事の進行を妨げると思つてだまつて居た。晝食の休みに、これを聞いた他の人夫達はくやしがつたが、後でこれを聞いた先生は、當時の錢高で百貫目を與へて、その人夫の心がけをほめた。「春兎とほつた後が百貫目。」といふ諺が永くのこつて居る。

先生はもとより賢明で、學問も深く、工夫に長じ、それだけ自信も強かつたにかかはらず、事業の爲には、名もない老農たちの言葉にも耳を傾けた。新川川の勾配を知る爲に、夜中に川筋へ同じ高さの提灯を吊して、横からねらつた事や、鎌田堰で、水勢を知るために長い繩を流してみたことなどは、路傍の老人老婆の意見を採用したものであるといふ。

産業

先生はなほ津呂・室津・手結・浦戸・柏島等の港を修築して、漁業や交通の便を開き、林業其の他農事の改善から、副業の奬勵にと、殘るくまなく産業を興す一方、盛に儉約をすゝめた。酒は庄屋の證明がないと買へぬし、泥酔になると何匁といふ罰金を取られた。

風俗改良

「赤面三匁、生酔五匁、千鳥足十匁。」

と酔どれをからかふ唄がはじまつたのは、これからである。

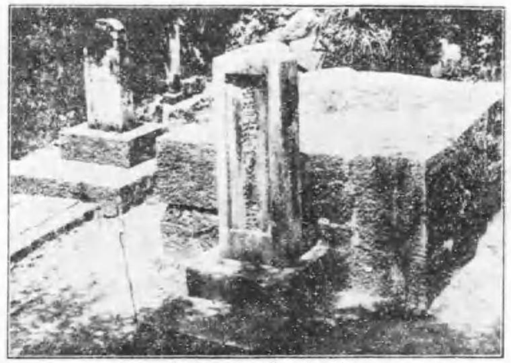
當時の土佐人には、葬式を粗略にする惡風があつた。これがために、たま〳〵悲歎の甚しい遺族でもあると、褒美をもらつたものである。

「泣き味噌三匁、よう泣いて五匁。」

と泣き虫をはやす童謠も、これから生れた。

かやうに、風俗の改良をはかるの外、朝寢を罰し、踊をさしとめるなど、奢を戒める規則も嚴しかつた。

先生はまた學問にも熱心で、京都や江戸・長崎はもとより、遠く朝鮮・支那からも書物をもとめ、又盛に出版もした。その一方、小倉三省・山崎闇齋の兩先生と共に、長濱の谷時中先生について南學を修めた。殊に



兼山先生の墓

學問の奬勵

闇齋先生が京都へ歸つて後も、學資を贈つてその修業をたすけたといふ。

先生は天下の大政治家で、その腕前を振ふには土佐一國はあまりに狹かつた。せせこましい土佐人には、功をねたむ者や、政治のきびしいのを嫌ふ者があつて、遂に先生を陷れた。職を退いた先生はまもなく失意のうちに病死した。寛文三年歳はまだ四十九であつた。

潮江の墓側に葬つてある家臣の古槇次郎八の如きは、世をなげいて、先生の墓前に殉死した義士である。

なほ先生の母秋田氏は、この偉人の母にふさはしい賢夫人であり、先生の女婉子も、世に聞えた女丈夫であつた。先生の遺族は幡多郡の宿毛に流されたが、婉子女史は後ゆるされて歸り、朝倉で醫術を開業した。秦山先生に學んで學問も深かつた。

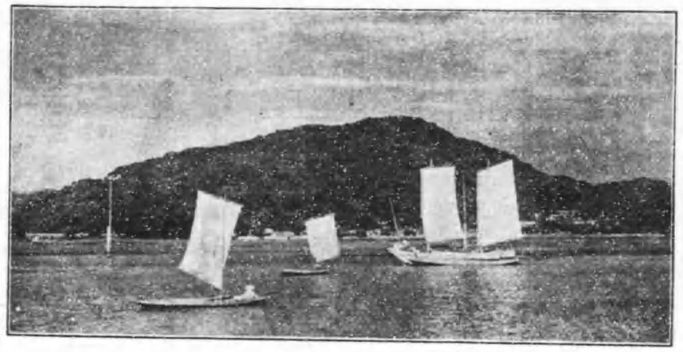
母と女

第十　五臺山をめぐる

吸江の景色を賞でつつ、名もゆかしい青柳橋を渡りつくすと、もうお山の麓です。四國靈場三十一番竹林寺への道標と、五臺山案内圖を建てた上り口から、少し行くと一の臺で、春野神社の境内に入ります。この社は贈正四位野中兼山先生をまつる縣社で、四月十三日の例祭には參詣人で賑ひます。先生は鄕土の大恩人で、私ども土佐人は、二百八十年後の今日でも、いや將來永久におかげをかうむることは、皆さんも御存じのこほりです。

一の臺をあとに、爪先上りの坂道の、つつじや櫻の花時の美しさを思ひ浮べながら、二の臺・三の臺とのぼつて行きますと、下枝まで眞赤に色づいたもみぢの並木道の向ふに、茶店が一軒ありま

春野神社



潮江より五臺山を望む

す。

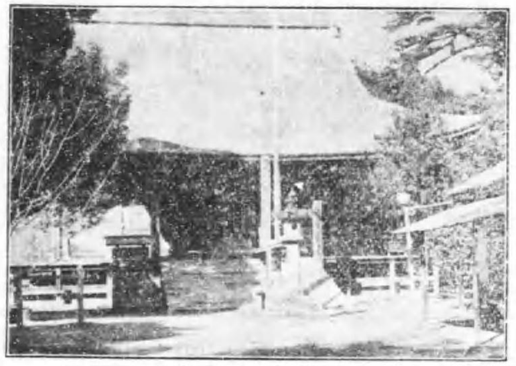
誰かゞきつと「鹿……鹿……」と聲をあげるでせう。そこでみんなが、一目散に指さす方へ駈けて行きます。金網を張つたかこひが、山の上へ上へとつゞいて居て、林の中から、いはゆる鹿毛に白い鹿の子斑の牡鹿牝鹿が、可愛らしい目をきよろ〳〵させて、寄つて來ます。そこで煎餅を買つて投げてやると、頭を下げてたべて居ます。その間に、網の間から手をさしこんで、頸をなでてやらうとしても、ひよいと案外輕く身をかはすのです。四の臺の方へ歩を運ぶと、鹿はかこひの中をついて上つて來ます。そのうちに、

神鹿

そこかしこから幾匹もあらはれて來ます。中には角の美事な、ちよつとこはいやうな大鹿も居ますし、足もとのおぼつかない仔鹿もまじつて居ます。足はかよわく見えても、中々達者なものです。

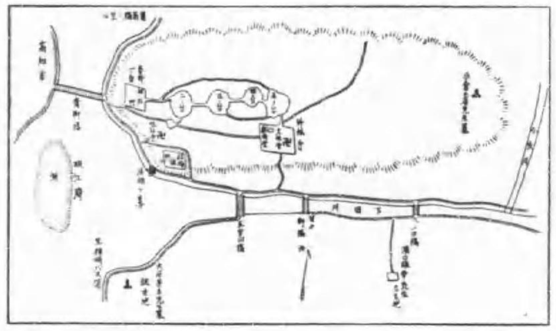
竹林寺

五の臺まで上りつめたら、ちよつと休みませう。こゝからだら〳〵と、東へかけ下りると、竹林寺の奥の院ともいつてよい船岡堂の横手へ出ます。木立の間に香のにほひがたゞようて、鉦の音が靜かです。落葉をふんで、赤いよだれかけをなされた石地藏尊の前をぬけると、文珠堂のお庭です。こゝから下へ石段がつゞいて、木堂の外に、鐘樓・大師堂・仁王門・庫裡などが散在して居ます。このお寺は、今を距る千二百餘年の昔、神龜元年聖武天皇の勅命によつて、僧行基の建てたものです。天皇が一夜、支那の五臺山に御のぼり遊ばした夢を御覽じ、行基が、仰せによつてこれに似た山を、日本國中でさがし當てたのがこの山です。だから五臺山とよばれるので、五の臺まで段をこしらへてあるからの名ではないのです。それから二百年程たつて、嵯峨天皇の御代に、弘法大師が四國八十八箇所の靈場を開いた時、札所の一と定めました。其後世のみだれや、或は火事・暴風などの災害にあつて、度々荒れ果てた事もありますが、戰國の後の空鏡上人、明治の世には船岡芳信師等が再興して、三重の塔を失つた外は、大體昔の面影をのこして居ます。行基の作と傳へられる、本尊の文珠菩薩像をまつる文珠堂と、寶物の佛像十九體は國寶に指定されて居ます。參詣をすませたら寶物陳列館を拜觀させてい



竹林寺文珠堂

たゞきませう。



五臺山案内圖

林中ほのかに聞く讀經の聲に心をきよめ、

山上の眺望

さて頂上の展望臺へ上つて、眼下にひらけた景色をながめるのもまたよい氣持です。鏡のやうな浦戸灣、その上に散在する釣舟、大高知市の全景、大宰相濱口先生を生んだ唐谷などはもとより、遠く遙かに太平洋のみどりも望まれます。眺めにもあきたら、遊園の辺り臺で遊びませう。

石段を東へ下りると、小學校の裏手へ出ます。下田川に沿うた道を少しもどると、大島岬の法師が鼻です。泊船岸ともよばれて、巖上の考松が昔の名勝の面影をのこして居ます。

法師が鼻

招魂社

櫻並木の廣場から、石段を上ると招魂社です。維新以來國事にたふれた人々を祀る社で、いはゞ土佐の靖國神社でせう。吸江を見下して、翠したゝる老松は畫なほ暗く、忠臣烈士の靈の鎭まりますにふさはしい所です。參詣をすませたら、献納の戰利品、南海忠烈碑・堺烈士の殉難碑などに先輩のいさをしをしのびつゝ、右手の吸江寺にも詣でませう。

吸江寺

吸江寺はもと吸江庵といつて、鎌倉・室町のころ幕府の尊信のあつかつた夢想國師といふ高僧が、京都から來て、こゝに住んだのが始めです。土佐出身の義堂・絶海の二名僧も居たことがあり、戰國時代の忍性や、山内氏入國後の湘南和尚なども聞えた學者でした。天下の大學者山崎闇齋先生も幼い頃からこの寺の小僧で、二十六歳までこゝに學び、いはゆる土佐の南學にも深い關係のあるお寺で、もと〳〵吸江庵の名は支那へまでも聞えたものでしたが、

明治初年に一時こはされて、昔の姿をのこすものとては、たゞなつかしくさびた石段だけであるのは、惜しい事ではありませんか。それでも、國寶の將軍地藏菩薩をはじめ、夢想國師の木像筆跡など、貴重な寶物を遺して居ます。

裏山にのぼると、竹林寺への捷路のかたはらに、名高い泉の獨鈷水があり、また五の臺までのぼる途中に、伊達騷動で知られた伊達兵部宗勝や、白柄組の暴れ者加賀爪甲斐守の墓などもあるのです。また、櫻やつゞじの春の頃たづねませう。

第十一　土佐の勤王

土佐人尊王心の由來

由來土佐人には濃い尊王の血潮が流れて居る。これは決して幕末維新の頃にはじまつた事ではない。

谷時中先生の墓

谷秦山先生の墓(田山)

鹿持雅澄先生の墓

考へてみれば、これは日本人として當然のことで、その起りに何の不思議もないのであるが、特に土佐人にこの心を強く培うた三つの力を數へあげることが出來る。卽ち、一は剛健な建依別の國風そのものであり、二は邊鄙な土地でありながら、學問が盛で、人々に大義名分を敎へることの大きかつたこと、三は下士階級が覺醒したことである。

土佐に學問の盛になつたのは、戰國の頃、周防の大內氏の舊臣南村梅軒先生が、吾川郡弘岡の城主吉良氏に迎へられて、朱子學をひろめたのが始まりである。朱

子學は支那の宋代に起つた儒學の一で、やはり孔子の學であるから、要するに仁義忠孝の教であるが、これが谷時中・野中兼山・小倉三省・山崎闇齋・谷秦山等諸先生に傳はる間に、次第に研究が深められると共に、土佐人の氣象に合ふ、元氣な學風の南學を生じたのである。

國學

谷秦山先生は、また土佐に國學をひろめた。その道の學者も多かつた中に、鹿持雅澄先生が貧困の中に刻苦勉勵して、萬葉集古義の大著述を遺したのは後人の鑑とするに足る。

この南學と國學とは、土佐人の尊王心を養成した力が大きく、早くから多數の尊王思想家を出したのであるが、これを實行にうつして、進んで德川の幕府を倒して、天皇親政の御代にかへさうといふ、卽ち勤王の大運動をまき起したのは、井伊大老が斃れた櫻田門の變の前後からである。

土佐勤王黨

その上、身分の低い鄕士の階級は、先祖をたづねると長曾我部氏の舊臣で、舊主家を亡した德川氏に、うらみこそあれ恩義は薄い。それに、將軍の膝もとで大老が首を取られるといふ時勢になつたから、大いに覺醒した。そして猛然として起つた。

文久元年に、武市瑞山先生を中心とする土佐勤王黨の血盟が生れた。そして上士達の知らぬ間に、次第に勢力を作つて、藩主を奉じて京都に上り、薩長と力をあはせて天下を動かそうといふのである。然し、藩の實權を握る吉田東洋先生は、瑞山先生等の主張に耳を傾けない。けれども時勢は急で、ぐず〳〵しては居られぬ。勤王黨士は怒つて、文久二年の四月、遂に東洋先生を暗殺した。

土佐藩の勤王

その年の夏、藩主豐範公は勤王黨をひきゐて京都に上つた。實に大名の入京は土佐がさきがけであつた。當時京都に於ける土佐

藩の勢力はめざましいもので、勅使の再東下・將軍の上京・賀茂石清水行幸・大和行幸の議・吉村寅太郎先生等の擧兵など、勤王派の勢は旭の昇るやうであつた。これはまつたく土佐・長州を中心とする勤王派のはかりごとが、天下を動かしたものであつた。

ところがはからずも、この間に、過激な倒幕の運動をきらつた薩摩・會津・桑名などの諸藩の運動が勢を得て、にはかに長州兵が京都を逐はれる事になり、勤王派は一夜にして灯の消えた有様となつた。

瑞山先生墓及死節の場所

勤王黨大獄

中央のこの形勢につれて、土佐の勤王黨にもきびしい壓迫が加はりだした。吉田東洋先生を殺したことをせめて瑞山先生以下勤王黨の主だつ人々は、歸國を命ぜられ、或は獄につながれ、或は切腹を命ぜられることになつた。殘る志士は、身のおきどころなく、土佐をのがれて長州に賴つた。そんなわけで勤王黨は四散してしまつたのである。

形勢一變

しかし、幕府の長州征伐は結局は失敗にをはり、坂本龍馬先生等が薩長の仲直りをさせて、討幕の計畫が大いに進んだ。

大政奉還の勸告

そこで、容堂公が後藤象二郎先生等をつかはして、將軍慶喜公に大政の奉還を勸告することになり、これがみごとに成功した。平和のうちに王政復古の大事業をなしとげた功は實に大で、これは薩長の討幕運動にもまさるてぎはであつたのである。

戊辰の戰役

藩主山内家の功績は、決してこれにとゞまらぬ。容堂公がすぐれた意見をもつて、新政を公正ならしめるやうにつとめたことや、藩籍奉還にあたつて、豐範公が薩長および、肥前の藩主だちと

もに、天下に先んじて範を示したことなど、その功績はまことに偉大である。兩公が別格官幣社に祀られるやうになつたのも故あることである。

山内容堂公

東征し、各地に奮戰した。それから後は上下一致して、版籍奉還・廢藩置縣の事に盡力した。

王政は平和のうちに、古に復したが、引つゞいて、鳥羽・伏見から奥羽・函館まで、いはゆる戊辰の小戰亂はまぬがれ得なかつた。これも坂本・板垣先生等の豫期した所で、土佐兵は正々堂々、錦旗に從つて

かやうに、土佐の勤王は實に身分の輕い鄕士を基礎とする、土佐勤王黨が原動力であり、そのまた源は、土佐人の血に流れた建依別の剛健な氣風と、これに培うた南學國學の教育の力とにあつたので、決して偶然に、また一朝に起つた事ではないのである。

第十二　維新の志士

志士の首領

「土佐の維新勤王家で、一番偉かつたのは誰ですか。」

「それは簡單にはいへない問題だが、やはり土佐勤王黨血盟の中心であつた武市瑞山先生だらうね。」

「坂本龍馬先生はどうですか。もつと名高くはないでせうか。」

「坂本先生も偉い、先生の活動は舞臺が廣くて、それにその一生が英雄にふさはしく華やかであつたから、全國的にはもつと有名であるかも知れないが、土佐の勤王といふ立場から考へると、ま

武市瑞山（半平太）先生

づ瑞山先生を主將に推さねばなるまい。」

「それは何故ですか。」

「土佐勤王黨の組織された時、瑞山先生を中心にしたのは、三十三歳といふ年長でもあつたし、それにもと江戸の桃井道場で塾頭をも勤めた劍道の達人で、當時新町田淵に開いて居た道場の門人が、多數同志であつた故もあらうが、何といつても、その高い人格の光のもとに、約二百名の同志が結合したのだ。瑞山先生は江戸や京都でも、その人格と識見で、志士の間に重んぜられた。その意見は最後まで、土佐藩一致の勤王でなくてはならぬといふので、藩論をまとめる爲には、ずゐ分苦心したものだ。又文久三年の夏の頃から、一時勤王派の勢が衰へて、その身が危くなつたけれども、土佐を見捨てて脫走しようともせず、それが爲に命をおとすを悔いなかつた。獄中で窓にさし入る月を眺めて、

坂本龍馬先生

世を思ふ心の足らでかゝる身は　ひま洩る月の影も恥かし。

と詠んで居るが、實に志士の首領として恥かしからぬ人物ではないか。それに若い時から孝子の譽の高かつた人で、繪畫にも書道にも、中々優れてゐた。身長は六尺（一八二センチ）近く、色が白く、顎の長い、目の大きい、どつしりと重味のある風采であつたといふ。地位の低い土佐の勤王黨をひきゐて、維新回天の大運動を、まきおこされたことは實に偉いものではないか。」

武市半平太先生獄中の自畫像

「偉いものですね。さうすると坂本先生は勤王黨の中心人物ではなかつたのですか。」

「さうだ。いはゞ天下一の名投手で、瑞山先生のなき後では事實上の首將であつた。一たい坂本先生といふ人は、謹嚴な瑞山先生

とは型のちがつた、豪傑はだの人物であつたから區々たる藩論に堪へないで、とう〳〵國を脱け出した。さうして開國論者の勝安芳の門人になつて、一心に航海術を勉強しつつ、他日我國の海軍を興し、海上貿易を盛にする素地をさめてゐた。もちろん當時は攘夷論の盛な時勢であつたが、先生の眼光は先の先まで見とほして居たわけだ。だから其の間に中央では、寺田屋騒動・大和義擧・池田屋騒動・蛤御門の戰などと、志士の血の湧く事變がしきりに起つて、國を脱出した同志の人々が、相ついで命をすてたなかに、先生は航海術の研究に餘念がなかつた。しかし倒幕の機の熟した長州征伐の頃から、盛に活動をはじめた。その頃は、瑞

坂本龍馬先生肖像

中岡慎太郎先生

山先生は既に東洋先生暗殺の責任者として切腹させられた後で、土佐の勤王黨は四散し、同志は大がい土佐藩内に居なかつたから、長州や長崎を根據地とした海援隊の坂本先生が、土佐勤王黨の中心であつたわけだ。」

「海援隊は、我國海軍のはじめだと聞きましたが。」

「幕府にも海軍はあつたが、勤王方卽ち新政府でいふとその通りだ。先生の功績はこの海援隊と、更に薩摩と長州とを同盟させた事と、大政奉還運動のかくれた功勞者であつた點だ。長州は早くから討幕論で進んだが、公武合體論だつた薩摩の爲に、蛤御門の戰で敗れた恨みや、其の外いろ〳〵こみ入つた事情があつて、兩藩は大變仲が惡かつた。けれども幕府を倒す爲には、この二大藩の力を協はす事が極めて必要であるといふので、坂本龍馬・中岡慎太郎兩先生が、薩摩の西郷・長州の木戸先生等を說きふせて、同盟

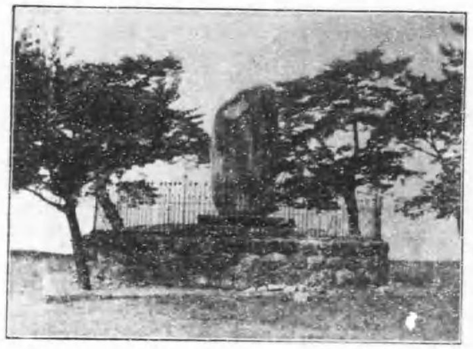
を結ばせた。さうして討幕の密勅を請ひ受けて、幕府を倒す段取りになつたのだ。」

「土佐は加はらなかつたのですか。」

「そうだ、然しさすがは坂本先生、ちやんとこゝに眼をつけて居た。土佐は藩祖一豐公以來、徳川家とは特別な關係になつてゐるので、薩長兩藩などゝは、おのづからその立場がちがつた。それで、先生は薩長同盟討幕の計畫を進める一方で、土佐藩の重役後藤象二郎先生等と謀つて容堂公から將軍へ、大政を返上するやう勸告したのである。その結果討幕の大戰爭も始まらずに、平和のうちに王政復古の大事業ができあがつたのだ。戰ふ用意は出來たが、戰はずして勝つのが最上の勝利だ。かういふ點で先生のはたらきは、實に天下第一だつたと思ふね。」

「全くです。こんな偉人が、明治の大御代をも見ずに暗殺されたのは惜しいことですね。まだ外にもそんなえらい人がありましたか。」

その他の志士



南海忠烈碑（招魂社前）

「あつたとも。瑞山先生が京都で活動した頃の相談相手で、瑞山先生より先に切腹させられた平井隈山・間崎滄浪先生等は、學問にもすぐれて居たし、前に述べた陸戰隊長中岡愼太郎先生も、坂本先生に劣らぬ人物であつた。その外、吉村寅太郎先生をはじめ百名ほどの偉人傑士が戰場や刑場の露と消えて、維新後に生殘つて働いた勤王志士は、その一部分に過ぎないのだ。しかしこれらの志士は、あまんじて國難にたふれた。こんな貴い犧牲を山と積んで、この新日本が基礎を固くしたのだ。贈位の恩典にも浴

し、靖國神社や招魂社に、護國の神と仰ぎ祭られるのも故ある事ではないか。」

第十三　憲政の發祥地

戊辰の戰亂も漸くをさまり、王政維新の基はいよ〳〵定まつた。

板垣退助伯肖像

さきに、明治天皇は五箇條の御誓文を下して、開國進取の國是を示し給うたが、當時の國民はまだ政治についての考が淺くて、政府の專斷によつて行はれる政治をあやしまず、隨つて岩倉具視・大久保利通・木戸孝允等の諸公が時に事を專にするきらひがあつた。この

自由民權論

時に當つて、政治は國民すべての者の力によつて行はねばならないと叫んで、國民の自覺をうながしたのが、自由民權論である。この思想の發祥地は實にわが土佐であつて、板垣退助伯・後藤象二郎伯等がその主唱者であつた。

板垣伯と後藤伯

板垣伯は、中島町今の高野寺の境内に、後藤伯は片町大橋通に生れ、一歳ちがひの腕白仲間であつた。兩家とも上士の家柄であつたから、早くから藩主豐信公（容堂）に仕へ、次第に擧げ用ひられた。後藤伯は吉田東洋先生の親戚で、早くからその教育を受け、板垣伯も東洋先生の教訓に發奮して、江戸で洋學を修めたものである。

こんな關係で、二人は常に相ならんで國事にはたらいた。後藤伯は大政奉還勸告運動によつて名を擧げ、板垣伯は征東の軍を率ゐて、會津戰爭に武名を轟かせた。

征韓論

維新後は共に朝廷に召出されて、參議の職にあつたが、たまたま明治六年征韓論の騒ぎがもち上つた。板垣・後藤・西郷・江藤・新平・副島種臣の諸公等が征韓論をとなへて、すでに出兵ときまつたところへ、歐米から歸朝した岩倉・大久保諸公等が極力反對した爲に、朝廷の意見が一變し、伯等一同は、袂を連ねて辭職することになつた。これに從つて共に官を辭した諸國の征韓論者等は、岩倉・大久保諸公等の所置を憤つて、これを除かうとして、ある者は暗殺をくはだて、或者は兵を擧げるなど、天下が穩かならぬ樣子であつた。

後藤象次郎伯肖像

自由民權と土佐

佐賀の亂・萩の亂・西南の役は、いづれもこの機會に、兵力によつて政府を覆し、政治を改革しようとして起つたものであるが、皆失敗に終つた。伯等はこれ等と意見を異にし、言論の力によつて政治を改革しようとしたのである。この主張であるところの民選議院設立の請願や、國會開設請願の民權運動は、天下の同情贊成を得て次第に勢力を增した。當時板垣伯は新京橋東側の地に立志社といふ塾を建て、土佐の青年に、自由民權の思想を說いた。當時土佐青年の政治熱は盛なもので、立志社の外にも、各所に社を設け、互に政論を戰はしたものである。立志社は、當時薩摩に於ける西郷先生の私學校と共に、天下に鳴り、遠く九州・北國・東北の地方から馳せ參ずる者も多く、土佐は實に天下に於ける自由民權運動の大中心であつた。

自由黨

明治十四年國會開設の大詔が下つて、はじめての政黨、自由黨が組織せられた。板垣伯はその總理に推され、中島信行男は副總

理になつた。後藤伯はあまり表面に立たずに、馬場辰猪・竹内綱氏等と共に常議員に、林包明・大石正巳氏等は幹事に（いづれも土佐人）選擧せられ、その勢力は實に盛なものであつた。この時一方で改進黨を組織したのが大隈重信侯である。

板垣伯岐阜の遭難地

その明治十五年四月六日、岐阜市の演說會場で、それから全國遊說の途に上つた板垣伯は、その政見を誤解する者の爲に襲擊せられた。伯は不意をうたれて、二刀程胸を刺されながらも、臂を以て敵に一擊を加へ、

「板垣死すとも、自由は死せず。」

と大喝した。この壯烈な一句は、益々天下の同情を集めた。この年伯等は共に歐洲に遊び、各國の政治家に會つて政見を磨いた。

翌年板垣伯が歸鄉した時の土佐人の歡迎は、實にすばらしい盛況であつたといふ。

立憲政體

明治二十二年、いよ〳〵大日本帝國憲法は發布せられ、立派な立憲政體ができあがつた。これはもとより明治天皇のありがたい大御心によるものであるが、これ等先輩の偉人が、國家の爲にはたらいてくれた功績もまた大である。

「自由民權は土佐の山間から生れた。」「土佐は立憲政治の發祥地だ。」とうたはれるのも當然である。

民權運動をめぐる人々

二人は其後も政界に活動して、何回も大臣になつた。板垣伯は政黨の表面に立ち、後藤伯は多く裏面に在つて重きをなした。

其の他の人材

片岡健吉・林有造・竹内綱・馬場辰猪・植木枝盛・岡本健三郎等の諸氏も、ともにこの運動の爲につくした鄉土の先輩である。爾來これ等先輩の意志をついで出た國家有爲の士は、ずゐぶん多い。島村速雄

元帥・元總理大臣濱口雄幸先生などは、その最もすぐれたものであつた。なほ維新前後の人傑には、岩崎彌太郎氏・山地元治・谷干城二中將等をはじめ、數へるにいとまがないほどである。

我等の覺悟

我等はどこまでも、當年の土佐人の意氣と精神を受けついで、帝國立憲政治の美を益々發揮せしめるとともに、各方面に立派な人物を輩出させるやう努力しなければならぬ。

第十四　高知市役所

市役所

地理的の移り變りや、先輩達の活動した歷史などを研究すれば、する程、高知市の姿がはつきりしてくる。私共は更に研究しなければならぬ、今日は丁度の機會だので、市役所のことについてお話を聽かう。

「お父さん、今の市役所の建物はいつできたものですか。」

「何でも大正九年に建築したと覺えてゐる。然し其の後高知市へは附近の町村と合併して、市政もだん〳〵複雜になつてきたので、大正十五年に大增築を行つて、今日の樣な立派なものとなつたのだ。」

「市役所の內部はどうなつてゐますか。」

「さうだ、市民の一人として公のためにも働かねばならないから、市役所や市政のことなど大に研究して置く必要があるだらう。あの美しい並木の生えてゐる表玄關をはいると、白いペンキ塗の上に、黑字で、各係を示した札が吊されてある。土間の右の見付が公設の代書で、市役所へ差出す色々の願や屆を無料で書いてくれる。其の內側が收入役室で、それから稅務課・市金庫・社寺兵事課・教育課・戶籍課と土間に向つて順々に南へならんでゐる。土間の南

市長

助役をはじめ市の吏員

突當りが社會課で、其の西隣が助役室、其の西側が新聞記者室で、其の他に庶務課・衞生課・土木課・勸業課がある、南の門の大銀杏の下をはいると、水道課で其の階上に市長室及び會計課がある。

高知市役所

二階には大廣間があつて市會議事堂兼公會堂にあててある。

一日見學することにせう。

「市長さんはどんなことをなさるのですか。」

「いま言つた通り市には教育・土木・衞生などなすべきことが澤山ある。各課には課長があり、その下には多くの吏員があつて其の課の仕事にたづさはつてゐる。市長はこれ等の仕事の計畫を立てて、市會にはかり、それが議決されたならば、計畫に從つてそれを實行すべき責任を持つてゐる。尙此の外徵兵の事務や、國稅の取立など、國の行政に關することもつかさどつてをられる一番大切な責任者であつて、市の經營してゐる總てがその指圖を受けてゐるわけだ。助役・收入役其の他多くの吏員方は、その指揮監督のもとに各の事務を分擔してゐるのである。

市會議員

市の發展をはかるには、市長や助役が中心となつて働くのであるが、この外に市民から選出された市會議員があつて、市會において市政を議するのである。

「議員は何人ありますか。」

「現在は三十六人である。そして任期は四年だ。」

「市會ではどんなことを決めますか。」

「市會では、主に市の豫算や條例規則・市の事業・市有財產の管理や處分・市稅や手數料徵收に關することなどを決めるのである。高知

市の歳出・歳入百二十七萬餘圓（昭和九年度）の大所帶が全く市會の決議によるといふことを考へてみると、實に其の責任は大きいものである。從つて市會議員の人格と手腕の如何は直ちに市の盛衰にかゝはるものであるから、議員選擧は市民にとつて最も大切なことゝなる。」

選擧

「選ぶ市民も餘程正しい考を持つてゐなければなりませんね。」

「さうだ、選擧するには、專らその人物に重きをおいて、決して親族・緣故その他私交上の關係のために心をまよはすやうなことがあつてはならない。どこまでも公平無私、たゞ適任者を擧げることだけを考へて、決して私心を持つてはならないのである。何れその他くはしい事は學校でおならひするだらう。」

市參事會

「市會の外に市參事會といふものがあるでせう。」

「よく知つてゐるね。市參事會といふものは市長と市會議員の互選した十名の參事會員とで組織されたもので、つまり市長の相談相手となり主として市會からまかせられたものをきめるのである。何しろ市會議員は三十幾人もあるから、たとひ其の三分の二でも一時に集めることはむづかしいからね。そこで少數の參事會員が議決機關となるのである。」

「お父さんよくわかりました。それぞれ大切な役目があるものですね。」

「さうだ。その役目々々がよくつとまるところに、高知市の平和と發展とがあるのだ。いや、今少し話したいこともあるが、又追つてのことにせう。」

第十五　高知測候所

高知測候所

今日は高知測候所の見學である。

山内容堂公の銅像前に額づくと、もうすぐ右隣りは高知測候所である。こぢんまりした白色の洋館で、屋上にはいつもながら可愛らしい風力計が面白さうに廻つてゐる。

木蔭でしばらく休んでゐると所長さんが、にこ〳〵しながら出て來られた。僕等が一禮すると、所長さんは、

「まあこちらへお入り下さい。」

と、先に立つて本館の方へ案内せられた。やがて通された部屋には、色々の掛圖や、本などが所狹きまでに並べられて、机の上には書きかけの地圖らしい物も見える。五六名の所員は何事か熱心に研究をつゞけてゐる。此處で所長さんのお話が始まるのである。

測候所の役目

「皆さん。測候所は何をする所か知つてゐますか。」

「お天氣を見る所でせう。」

誰か前の方でさう答へた。

「なるほど、氣象を觀測する所ですね。しかし、測候所は唯それだけの仕事をしてゐる所ではなく、外にも色々な仕事があるのです。此所で觀測した氣象は、毎日三回、必ず東京の中央氣象臺に報告することになつてゐます。又日々の天氣豫報や、暴風警報も、測候所の大切な仕事です。又地震の觀測もやれば、正午の時報もやります。だが、今こゝで最も力こぶを入れてゐるのは、縣内の氣候を調査して、これと産業・交通・衞生などとの關係を研究する事です。是等の結果は、なるべく多くの人々に利用してもらひたいと思つてゐます。

高知測候所

氣象と人生

氣候は人類の生活と大へん關係があります。さしあたり、日々の氣象の變化にしても、どれだけ、人の氣分に影響し、どれだけ、人の活動に關係するか測り知れない程です。沖の漁船や汽船は、無線電信やラヂオの天氣豫報を聞いて、近づく颱風の難をさけ、飛行機は氣流が惡ければ出發を見合せます。實に今後は氣象に對する知識と、氣象の變化に應じられるだけの準備が大切であると思ひます。ある園藝家で、測候所の研究を利用して、意外な成績をあげた人もあります。

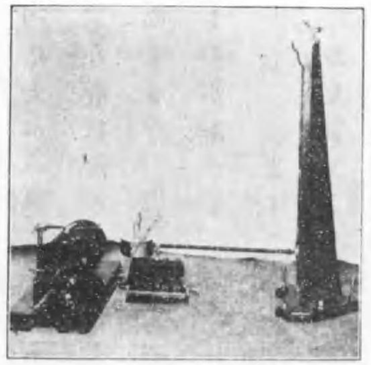
天氣豫報

「天氣豫報はどうして出しますか。」

「雲の入る時は雨になり、雲の出る時は晴れる位の事は諸君も知つてゐるでせう。又昔から、朝虹は雨、夕虹は晴とかいひ傳へてゐますが、今日の天氣豫報はよほど進歩して、精巧な機械の力と發達した通信のおかげにより、あたらしい學理にもとづいて判斷

天氣圖

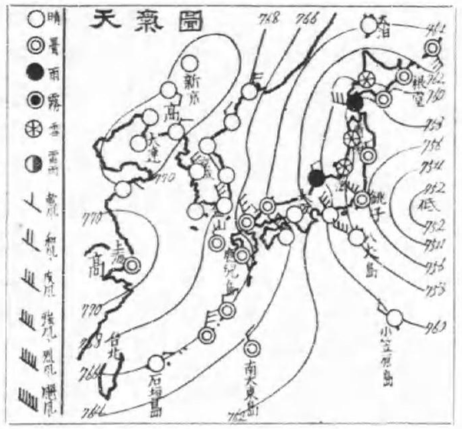
するのです。測候所には、寒暖計・晴雨計・濕度計・日照計・風力計・風信器・雨量計・地震計などが備へてありまして、多くは自動的に刻々正確な記錄を殘してゐますから、これによつて當地方の氣象が判ります。此の觀測の結果と、毎日三回、内地をはじめ、臺灣・樺太・朝鮮・滿洲等で觀測した氣象とを合せて、天氣圖といふものを作り、今後の天氣を豫測して、こちらの天氣豫報を出すのです。毎日午前九時頃にあげるあの天氣旗は其の日の午后六時より翌日の午后六時までの豫報です。其の日の天氣豫報は夕刊新聞にも發表してあるし、ラヂオでもよく聞きます。



地震計

これが今日の午前六時の天氣圖です。これを見ると全國の天氣

天氣旗


天氣圖
晴
曇
雨
霧
雪
霧雨
霧雪
霧雨雪
霧雨雷
雷雨
雷雨雪
雷雨霧
雷雨霧雪
雷雨霧雪雷
雷雨霧雪雷雨
雷雨霧雪雷雨雪
雷雨霧雪雷雨雪霧
雷雨霧雪雷雨雪霧雨
雷雨霧雪雷雨雪霧雨雷
雷雨霧雪雷雨雪霧雨雷雨
雷雨霧雪雷雨雪霧雨雷雨雪
雷雨霧雪雷雨雪霧雨雷雨雪霧
雷雨霧雪雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨
雷雨霧雪雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷
雷雨霧雪雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨
雷雨霧雪雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪
雷雨霧雪雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧
雷雨霧雪雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨
雷雨霧雪雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷
雷雨霧雪雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨
雷雨霧雪雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪
雷雨霧雪雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧
雷雨霧雪雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨
雷雨霧雪雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷
雷雨霧雪雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨
雷雨霧雪雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪
雷雨霧雪雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧
雷雨霧雪雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨
雷雨霧雪雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷
雷雨霧雪雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨
雷雨霧雪雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪
雷雨霧雪雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧
雷雨霧雪雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨
雷雨霧雪雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷
雷雨霧雪雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨
雷雨霧雪雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪
雷雨霧雪雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧
雷雨霧雪雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨
雷雨霧雪雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷
雷雨霧雪雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨
雷雨霧雪雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪
雷雨霧雪雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧
雷雨霧雪雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨
雷雨霧雪雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷
雷雨霧雪雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨
雷雨霧雪雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪
雷雨霧雪雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧
雷雨霧雪雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨
雷雨霧雪雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷
雷雨霧雪雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨
雷雨霧雪雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪
雷雨霧雪雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧
雷雨霧雪雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨
雷雨霧雪雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷
雷雨霧雪雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨
雷雨霧雪雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪
雷雨霧雪雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧
雷雨霧雪雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨雷雨雪霧雨

氣候・氣象に注意あれ

今までお話したやうに、日々の氣象や一年中の氣候は、私共の生活と密接な關係があるにも係らず、一般にあまり注意しない樣に見えるのは、實に殘念です。せめて諸君は此の方面の研究をつまれて、それを十分に利用していたゞきたいと思ひます。今日の私の話はお家やお隣の方々へも、是非お話して下さい。」

一通りお話がすんで觀測室と外庭の設備を見學して測候所を出た。見上げる空の天氣旗は相變らず吹くそよ風にひらめいてゐる。

「北西の風、曇後晴。」

第十六　工場めぐり

一、土佐セメント株式會社

昨日、兄さんにつれられて、孕のセメント會社を見にいつた。

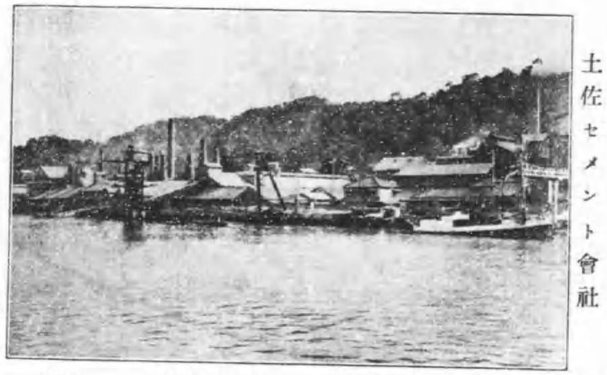
製法
原料
燃料

セメントになるまで

應接室で待つてゐると、間もなく技師長さんがはいつて來られた。御挨拶がすむと、技師長さんは僕等にお茶をすゝめながら話しはじめた。

「この工場は乾式法で、セメントを製造してゐますが、原料は此處からおよそ四キロメートル位西方の治國谷の石灰岩と高岡郡多郷産の粘土とを用ひてゐます。燃料の石炭は主に九州炭でありますが、近頃は撫順炭も大分用ひるやうになりました。」

技師長さんは壁の圖をさしながら、製造順序のあらましを說明せられて後、「くはしい事は工場の方で申しませう。」といつて、工場に案內して下さつた。物すごい機械の音で、お話もきゝ取



土佐セメント會社

りにくい程であつたが大要は、「原料の石灰岩と粘土とは、それ〴〵乾燥せられ、適當の割合に混合、粉碎せられて、燒窯に送られる。窯の中で攝氏一千四五百度の熱にあふて、セメント燒塊といふ黑い小さな塊となる。これに石膏を加へて粉碎するとセメントになるのである。それを袋や樽に詰め、汽船に積込むまで、全部機械的に行はれてゐる。」といふことであつた。

沿革

應接室に歸へると兄さんは、「此處にセメント會社の出來たのには、何か深いわけがありますか。」とお尋ねした。

「さうです。此の附近には石灰岩の產地が多いし、前の海底には質のよい粘土がたくさんあつて原料が得易い事と、交通運輸の便利な事が主な原因だつたでせう。今から約五十年程前、小松某といふ人が此の地でセメント製造をはじめたのが、この工場の始まりで、その後次第に工場をひろめ設備を改良して、遂に今日のやうな立派な工場となつたのであります。今では本社は資本金一千萬圓、一箇年三百萬樽を產出する能力を有し、セメント工場としては、全國屈指の大工場の中には入つてゐます。さうして其の製品は、縣內は勿論、東京・大阪をはじめ、遠く支那・印度・比律賓方面に迄積出されて、品質は世界の如何なる製品と比べても、決して劣らないのであります。近年セメントの需要は年と共に增加して、我が高知市に於ても道路や、橋や、築港や、建築など、あらゆる工事にセメントを使はないところはないといつてもよい程です。

產額

販路

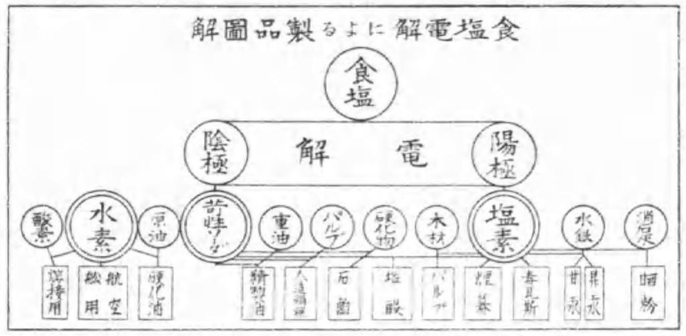
用途

幸に豐富な原料と動力とによつて、良質の製品を多量に製產することの出來るのは、本縣產業界の誇であります。」と、結ばれた。

お話を聞いて僕も何だか得意になつてお暇した。

二、南海晒粉株式會社

製品
産額
販路
製法
原料



セメント會社からの歸途、中堤で電車を下りて晒粉會社を訪ねた。工場を一巡して後、事務員さんは次のやうにお話になつた。

「此の工場では、硫酸と、苛性ソーダと、晒粉とを製造してゐますが、年産額はいづれも二十六七萬圓位です。硫酸はあの庭に並べてある壺に入れて全部阪神地方へ積出して人造絹絲やセルロイド製造の原料にするのです。

苛性ソーダと晒粉は食鹽の電解によつて出來ます。これに用ひる食鹽は主に關東州産のものでありますが、稀にはエジプト鹽を用ひる事もあります。

販路
工場の將來
タンク

苛性ソーダと晒粉とは共に製紙工業用として、大部分縣内で使はれ、一部は大阪方面に積出されます。

此の種の工場は全國に十數箇所ありますが、製品の性質上、有事の場合には軍需工場として毒ガス・煙幕・氣球用水素等を製する極めて重要なものであります。此の工場でも將來は種々の化學藥品の製造に進むやうに計劃中であります。」と話された。

大空に聳えた五十メートルの煙突からは盛に黑煙が立ち上つてゐる。

三、高知瓦斯株式會社

銀色の大タンクを目あてに下知にある瓦斯會社へ向つた。タンクは直徑が二十メートル、實に三千立方メートルの瓦斯を入れる事が出來る。と聞いては驚くの外はない。

使命

技師長さんは、「石炭ガス工業の大要」といふ印刷物を下さつた。僕が知りたいと思ふ事は大てい其の中に書いてある。いろ〳〵お話があつて後、技師長さんは更に言葉をついで、

「白熱瓦斯マントルが輸入されて電燈をおひはらつたのは昔の事で、電燈の發達につれて石炭瓦斯は本來の使命である熱用と變り、家庭用は勿論工場用として、又醫療用として、近年瓦斯の利用は實に目ざましいものであります。將來熱の世界を支配するものは石炭瓦斯の外にありますまい。」と話された。日はもう西の山にかくれて、電車通には美しく電燈が光つてゐた。

四、高知製絲所

赤石停留場で電車を下りて左手の赤煉瓦の塀の中には入つた。此處は片倉製絲會社に屬する高知製絲所である。三萬三千平方メートルの廣大な敷地の中に建てられた數棟の倉庫には、年々全縣下にわたる養蠶家の汗の結晶である繭が百餘萬キログラム程積入れられる。

原料

釜數四百二十五、六百數十名の從業員によつて繰絲が續けられ、絲價の最も安い今日でも尙且、年產額百二十萬圓と聞いては、さすがに縣下第一の大製絲工場とうなづかれる。

產額

販路

荷造された生絲は横濱に運ばれ、本社の製品と共に米國に輸出されるといふ。工場を一巡した。數百人の女工さんが無言で繰絲にいそしんでゐる樣子は到底他の工場では見られぬ光景である。

五、日本紙業會社旭工場

和紙は、鰹節・珊瑚とならんで、本縣特產品として世に知られてゐる。就中、典具帳紙は其の最たるもので、其名は遠く歐米にまで聞えてゐる。年產額百五六十萬圓、こゝはその主要な製造工場

產額

原料

である。土佐・吾川・高岡三郡の北部地方から産する楮を原料として百數十人の熟練工の手によつて製造されてゐる。

製紙工場（典具帳紙）

販路

アメリカ合衆國を第一にイギリス・ドイツ等にも輸出されるといふ。文明が進んで、あらゆる工業が機械化されつゝある今日、ひとり我特産品の和紙が手漉によつてその光をはなつてゐるのは面白い。

工業の將來

歸りに兄さんは、「市内にはまだこの外にも大きな工場がたくさんあつて、各種の製品を出してゐるし、近くは大阪の天滿織物株式會社もその分工場を設けると いつてゐる。高知市の工業が年と共に發達するのは非常によろこ

しい事である。」と話された。

第十七　高知放送局

JOBK高知放送局

或日曜日、僕等數名は、先生とごいつしよに、「jOBk高知放送局」を訪れた。建物は鐵筋コンクリートの平屋で、アンテナ用の大鐵塔は、東西に嚴めしくそゝり立つてゐる。

高知放送局

演奏室

一人のアナウンサーが、快く演奏室に案内して下さつた。

凡そ二十疊敷位かとも思はれる一室で、中央にマイクロフオン、一方の隅にピヤノが一臺、他の一隅にアナウンサー用の机が一脚、

そこにも一つの小さなマイクロフオンが置かれてある。案内者はマイクロフオンを指さしながら説明せられる。

出演者が此のマイクロフオンに向つてお話をしますと、聲は電流に波を起して次の放送機室に行き、それが又、アンテナから電波にのつて、四方八方に擴がつて、多くの聽取者を樂しませるのです。昭和七年三月二十二日は、高知放送局の記念すべき放送開始の日で、其夜は市内各小學校から一組づつ出て、唱歌を放送しました。それ以來、多くの方々が、ローカル放送に出演されました。マイクロフオンは、室外に持ち出すことも出來るので、昭和九年七月の防空演習には、縣廳の屋上から實況放送をもいたしました。

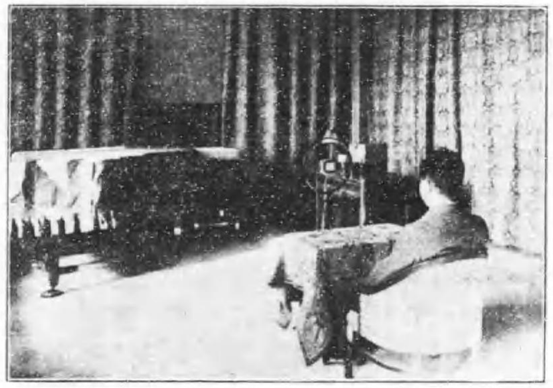
中繼放送

しかし、御承知の如く、毎日放送されるプログラムの大部分は中繼放送で、東京・大阪をはじめ全國二十五箇所の放送局から送つて來る名士の講演、名人の演奏、實況放送などを中繼してゐるのです。最近には又、國際中繼放送といつて、日本から世界各國に向つて放送する一方、滿洲國をはじめ、歐米諸國から無線で送つて來る音樂・演說などを、我國の受信局でキヤツチして、中繼放送することもあるのです。」

と說明していたゞいた。

私は「千里比隣」とはいよ〳〵今日の事で、人智の進歩についての驚きと、現代に生きてゐる幸福をしみ〴〵と感じた。

次の放送機室は大きな機械が、一ぱい並んでゐるので廊下からのぞいて見た。二人の技師が機械の調節



演奏室にてマイクロフオンに向ふ

放送機室

局長さんのお話

をしてゐるらしく、スピーカーからは、何かお話が聞えてゐる。

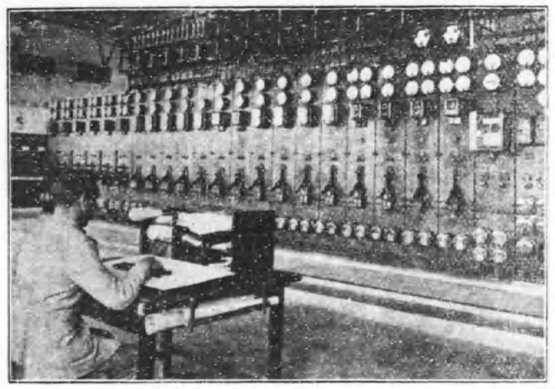
「今丁度、東京中央放送局から中繼放送中ですが、此の電流も、隣の演奏室から來る電流も、ごく弱いものですから、此の室で色々の機械にかけて強くし、更に放送機に導いて、上空に張つた二條のアンテナと、アースとの間に起してある振動電流といふものに織込むと、電波となつて四方へ發散するのです。この電波が聽取者の家のアンテナにぶつかると、アースとの間に同じ樣な振動電流が起るから受信機で此處と逆に電波から音波に變へて聽きける事が出來るのです。」

と說明して下さつた。

電力室・電地室なども一通り見學して、應接室で休んでゐると、局長さんが見えられて、無線電信の發明から、今日のラヂオまで發達の歷史や、我國をはじめ諸外國のラヂオの實況、更に我が高

國民の學校

江の口縣營變電所



江の口發電所配電盤

知放送局の設けられた樣子などいろ〳〵のお話をうかゞつた。

此の樣に放送局は日夜、有益な講演や、時事ニュース、慰安の演藝、日用品物價、天氣豫報など、我々の日常生活に缺ぐ事の出來ない大切な事がらを放送するので、實にゐながら聽講の出來る國民の學校とも云へる。一臺の受信機は新聞にもまして、生活の必要品として急速の普及發達をとげつゝあるのも當然のことである。

放送局を出た私共は、引きつけられる樣に、縣營の變電所を見學した。コンクリート建の內部や裏側は、交叉した大きい電線が一ぱいで、見るからに複雜したものである。技師の方が、

「此處は長岡郡新改村や、東豐永村、或は吾川郡名野川村の仁淀川發電所などから、はる〳〵送電して來る電氣を、市内の各工場や、精米所、製材所などへ配給する所です。此處を御覽なさい。」

なるほど大きなスイッチがたくさんならんでゐる側へ、それ〳〵送り屆ける場所の名が示してある。其の一つを取つて、

「これが放送局へ送るスイッチです。」

と説明して下さつた。萬一故障があつても、潮江の火力發電所をはたらかせて、市民に、めいわくのかゝらないやうにしてあるとの事であつた。

歸途、先生から電氣について次の樣なお話があつた。

「ほんとに電氣の世の中だ。諸機械の原動力であつた人の力はおろか、蒸氣力さへも、だん〳〵電氣にかはつて、工業界の一大革新をうながしてゐます。高知市に初めて電燈のともつたのは明治

三十一年、電車は三十七年、ともに當時の人々は眼をみはつたものでした。それが、只今はどうでせう。交通、通信、照明から、各種の電熱器などに使はれ、ラヂオまで、樂々と聽けることになりました。しかし、電氣の利用はこれでつきてゐるのではありません。將來にのこされた大きな研究と、その利用は皆さんの双肩にかゝつてゐるのです。」

と僕は今更、電氣の力の目ざましさに、希望の胸ををどらせた。

第十八　納　税

高知市の發展に伴ひ、學校の增改築や土木工事が次々に行はれた事は實にすばらしいものだ。そんな費用は一體何所から出るだらう。一日、市役所で聞いてみた。

「高知市の經費は大體どれ程ですか。」

「最近非常に增しまして百五十萬圓を突破してゐますよ。本年度初の豫算をお目にかけませう。」

と、示されたのが次の通りである。

昭和九年度の豫算

昭和九年度當初豫算

一般會計豫算

歲入	一、一四四、五〇七圓
歲出	一、一四四、五〇七圓
經常	六二一、六四一圓
臨時	五二二、八六六圓

特別會計豫算

歲入	四〇七、八〇八圓
歲出	四〇七、八〇八圓

市の發展と豫算

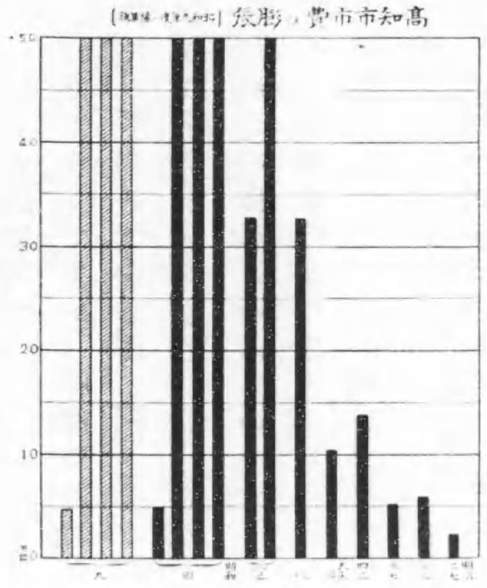
合計

歲入總豫算	一、五五二、三一五圓
歲出總豫算	一、五五二、三一五圓

「國でもさうですが、府縣市町村などの地方自治團體では、其の公共の事業や公益施設を行ふ爲に必要な一箇年分の經費と、其の金の出所とを先づ豫定して、見込を立てることになつてゐます。それがこの豫算といふものです。市の會計は、元來どんな事業でも一つの豫算の中に盛り込み、一つの世帶として勘定してゆくのが本體ですが、其の事業の收入によつて支出を按排し、他の會計と別にするのが、適當であることがあります。それを特別會計といひます。高知市で特別會計に屬する主なものは、水道事業と中央市場の經營であります。」

「隨分澤山な費用ですね。」

「さうです。これを今から四十年前、卽ち明治二十七年の市費二萬三千餘圓と比べますと、實に六十七倍の大世帶となつてゐます。



これは我が高知市の發展と時勢の進歩の結果であります。」

「この金をどう使ふのですか。」

「君達の學校教育を筆頭に道路・橋・堤防などの土木費や社會事業費に、其の他衞生・勸業・警備等の諸設備の費用に多額の支出をしてゐます。然し是等は皆市民の生活の安寧とその福利を增進し、やがて我が國運の發展を促がすものであります。

納稅の義務

市の財源どいろ〳〵の市稅

す。それで市稅を納める事は國稅・縣稅を納めると同樣に國民の義務であり、國家に對する、御奉公となるわけであります。」

「では、これ等の經費は皆市稅から出るのですね。」

「いや、そうでもありません。市の財源には市稅の外に使用料・手數料・補助金・國庫下渡金・交付金・雜收入・市債等があります。然し其の中心となるものは、何といつても市稅です。市稅には二通りあります。

一つは直接國稅或は縣稅に附加される附加稅で、他は特別稅です。附加稅には地租附加稅・營業收益稅附加稅・特別地稅附加稅・家屋稅附加稅・縣稅・營業稅附加稅・縣稅・雜種稅附加稅があり、特別稅には特別稅戶數割や特別戶數稅があります。

本年度豫算の市稅額は、五十四萬五千九百餘圓で、歲入豫算の三割五分二厘に相當してゐます。それで納稅成績の良いか惡いか

納稅の成績

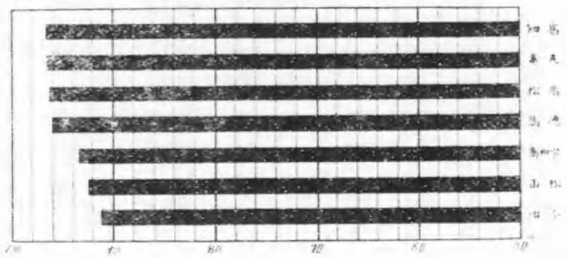
は、直接事業の運轉に影響しますので、市政上まことに重大といはねばなりません。」

「高知市の成績はどうですか。」

「昭和八年度の市稅の納稅成績を比較してみますと、四國地方七市中第一位の好成績ですよ。」

「愉快ですね。」

「そうです。これは全く市民諸君の鄕土愛の致すところであり、愛國心の表れであつて誠に御同慶に存じます。然し納稅歩合は九六・五パーセントであり、全國百二十五市中第三十位といふところですから、まだ〳〵滿足出來ませんよ。」



納稅組合

市債その他の公債

「さうですね。尙一層向上させるによい方法でもないものですか。」

「あります。この納稅が十分に行はれない理由は市民の納稅觀念が低いからだとのみ言ふ事は出來ません。」

今日のやうな不景氣に伴ひ、一家の經濟にも差支へがあつて、納稅が困難或は不可能となる事もありませう。それで今日は一般納稅觀念を向上さすと共に、なるべく苦痛がなくて納稅しやすい方法を考へねばなりません。これには納稅組合を設けるのが有効だと思ひます。高知市でも大正十三年から始めて今では（昭和九年八月末）組合數百六十一、加入者が四千八百五十三名に達してゐますが、何れも立派な成績をあげてゐるのは愉快です。」

話が市債に轉じて中々盡きない。僕はかねゞ我が國には一人宛百五圓の國債があるといふ事は聞いてゐたが、高知縣には一人宛二十八圓餘の縣債があり、更に我が高知市にも百八十萬三千餘圓、

一人宛十七圓四十五錢の市債をもつてゐるさうだ。つまり我々高知市民には、男も女も年寄も赤ん坊も百五十圓餘の借金をしてゐることになるのである。

第十九　年中行事

お正月

昨日にかはらない夜明けではあるが、お正月といふと、何となくすがすがしく、心も改まるやうに思はれる。宵のうちに掃き清められた街は通る人も少く、こゝろよい朝風がはた〳〵と國旗をうち鳴らしてゐるばかりである。お役所勤めの人々、學校の先生・生徒の群が一しきり街を賑はすと、やがて紋付羽織袴の回禮の人々が織るやうに通りはじめる。二日三日とたつてもまだ正月の氣分は醒めさうにもない。柳原あたりへ行くと、北風の寒い空には、

消防出初式

大凧小凧がうなりをあげ、着飾つた女子供の出遊ぶものが大變に多い。

消防出初式と勇ましい演習

忽ち火事場の大混亂となる。

正月も三日四日とは過ぎたが、まだ屠蘇の香のただよふてゐる六日頃街にはけたゝましい消防自動車のサイレンが鳴りひびく。

今日は消防の出初式だ。「すは。」とばかり人々は柳原へ押し出されて行く。勇ましい分列式は終つた。俄造りの木造洋館に黒煙があがつたかと思ふと、警鐘亂打、各部の消防自動車が、砂煙をまいてうなつて來る、あたりは梯子が掛る、一名の消防手が勇敢に

も、猿のやうにかき上る、と見る間に一條の綱によつて長い〳〵救助袋が引き上げられる。つるべのやうな緩降器・繩梯子・救助幕など、次から次へと用意されて人々は無事に救助されてしまふ。防禦隊の活動も亦目ざましく、ポンプ・自動車のエンヂンの音物すごく放水する。黒煙につゝまれ、火の粉をあびながら、猛火と戰ふ消防手の勇ましさと、その規律ある活動振りは、見るからにたのもしい。

梅見

節分から立春、暦の上では春になつてはゐるが、二月の春はまだとても寒い。紀元節のお祝日頃から野山の此處彼處に可愛らしい梅の蕾が、ちらほらとほころびだすと、高知公園の梅の段は漸く人足が繁くなる。

札所巡り

彼岸も過ぎて櫻咲くのどかな春がおとづれると、札所巡りの善男善女の群が見受けられる。白い菅笠に清げないでたちの人々が、

招魂祭

三々五々うちならんで、札所札所をめぐつて行く景色は南國土佐にふさはしいおもむきである。

和やかな札所巡り

四月二日は官祭招魂社の例祭だ。五臺山村大島崎からはるかに吸江の入江を見渡す所に御社がある。戰死者、その他國事にたふれた人々など、三千にあまる忠勇の士の魂の永久に眠る地、松の綠、杉の古木、おのづからなる靜かな所で、社前にぬかづくと、神々しさがひし〳〵と身にせまつて來るのを覺える。例祭の日には遺族二千の人々に、縣下一般の參拜者が加はつて、おごそかにもまたにぎやかにお祭が行はれるのである。

櫻狩

櫻も花盛りの、四月始から中頃にかけて、高知から佐川・本山などに出掛ける櫻見物の客は實にすばらしいものだ。あそこの會社、此處の銀行、さてはお役所の人々、さうした團體から家庭の人々まで、散り急ぐ櫻におくれまいと、日毎夜毎を櫻見物にいそがしい。だがそれも一夜の嵐が吹くと、も早や葉櫻だ。かうして世はすつかり初夏のよそほひとなるのである。

田植

年にお米が二度取れるのは臺灣だけではない。高知附近から香長の平野にかけてはことに二番作で有名だ。まだ水の冷い頃から一番稻の田植が始まる。一番草・二番草・三番草を取る頃は、もう青疊をしいたやうなたんぼの風景である。

虫送り

夜風に吹かれて、虫送りの鐘の音が、夕涼みの緣先へ聞えてくるのも、間のないことである。

夏祭り

七月は各神社の夏祭りでにぎはふ、日の永いのにうみはてた街の人々は、涼しい夕風が吹き出す頃から、ゆかたがけで出かける。山の手にある神社への狹い道の兩側には、軒をならべて掛店がならぶ。そのガスランプの下に、もの珍らしげに集つてゐる街の子供達の顏も、此の夜ばかりは、何となく田舍めいて面白い。

水浴

七月中頃から八月にかけては水浴だ。附近の川では鏡川のにぎはひ、少し遠くては、桂濱・種崎・手結の海水浴場など、暑い日にはわきかへるやうなにぎやかさだ。

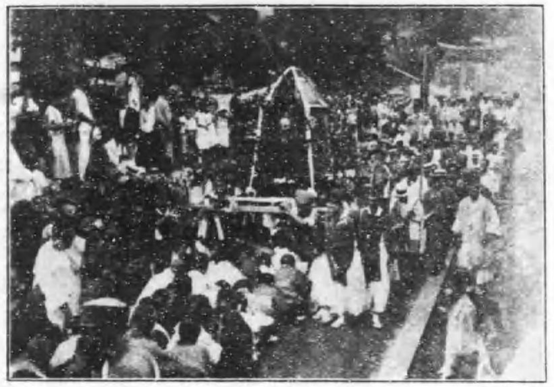
早稻の取入れ

七月の終りから、早稻が色づいてくる。刈る、扱く、耕す、其の一方では二番稻の植付だ。夏の終りから秋にかけて、お百姓さんの世界は段々といそがしくなつていく。

志奈禰祭

夏の最後のにぎはしさは、何といつても土佐神社志奈禰祭である。土佐神社は土佐郡一宮村に鎭座ましまし、國幣中社として全縣下の尊信が非常に厚い。其のお祭も今から一千百餘年前、卽ち

奈良時代の頃から始まつたとのことである。八月二十五日がお祭の當日で、其の前日、前夜から遠近を問はず、參詣人の群がひし〳〵とつめかける。



志奈禰祭御神幸

高知市及び其の附近からの參拜人もまた中々多い。自動車・汽車・電車など、乘物の發着絶間なく、全く想像のつかないほどのにぎはしさである。このお祭の神事に、松明を焚くこともあるが、なほ御神幸の時に、神輿の下をくぐるならはしがある。老いも、若きも、富めるも、貧しきも、何の差別なしに、神輿が人々の頭の上を通り過ぎていくのを待ち、道の辻に出ると、待ちかま

彼岸詣

へてゐた人々が、横合から神輿の下をくぐる。この間全く我を忘れて清い心になり、ただひたすらに神を念ずるのである。神輿くぐりとでも名づけやうか、まことに珍らしい神事である。

雲が高く、空の色が深くなつて來ると、朝夕の風も何となく襟足につめたく感ぜられる。もうたんぼの道には彼岸花が秋日の下に赤赤と照りはえてゐる。彼岸の七日間、ことに中日にはお墓參りに山々がにぎはふ。

月見

秋は夜がよく、夜は月がよい。瓦の上に見る月も、海邊に見る月も、月にかはりはないが、いそがしい日々を送つてゐる街の人々には桂濱や種崎の月見がまた一つの樂しみである。舊八月十五日、からりと晴れた空に、團々とのぼつていくお盆の月、夕方早くから夕げのむしろをひろげて待つてゐた街の人々に、今宵こそはまことにのんびりとした一夜である。

秋祭り

日がだん〳〵南にかたよると、秋ももう終りに近い頃となる。刈り殘されてゐた二番稻も大方は刈りとられた。十一月になると各神社の秋の祭りがにぎやかだ。十一月四日藩祖一豐公を祭る藤並神社の祭禮は分けても中々にぎやかだ。小學校も中學校も女學校も一齊に朝から參拜する。珍らしい騎馬武者の行列、柳原の要馬など、此の日は街の人々を喜ばす色々のもよほしが多い。

舗道の上を、土ぼこりをまいて吹く風の日が多くなつて、これから又寒い冬となるのである。

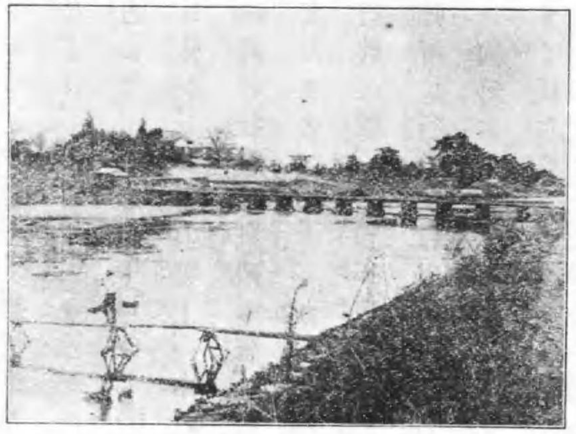
鏡川は源を土佐郡土佐山村、鏡村に發し多くの支流を合せて浦戸灣に注ぐ

第二十　鏡川と上水道

一、鏡川

お城の天守閣をあか〳〵と照してゐた夏の夕日も、市營グラウンドから沈下橋の上まで來ると、はや西の山に沈みかけて、川瀨の小波に金波を躍らせてゐる。橋臺に碎ける鏡川の水は其の名に背かず、鏡の如く澄みきつて、泳いで行く小鮎の姿まではつきり見える。

沈下橋（柳原橋）田水時には水中に沒するによりこの名がある



沈下橋と山内神社

鏡川は全長僅かに三十キロメートルばかりで、決して長い川とはいへない。しかし、百平方キロメートルにわたる流域一帶が、全國でも稀な多雨地であるのと、森林に富んでゐるためか、川水は滾々として年中絶える時がない。

日盛には、此の橋の上下共に、水浴び子供達で一ぱいだが、今は僅かに數人の鮎釣りの人達が、長

い釣竿を垂れてゐるばかりである。しかし、柳原の青草の上は、やがて、夕涼の人出で賑はふ事だらう。遙か川下の天神橋・潮江橋などは、赤い夕日を浴びて、まるで虹の橋かと思はれる。右手の方には、その名もゆかしい筆山。その麓に鎭座まします天滿宮のお社や、柳原の堤上、木立の間に見え隱れする、別格官幣社山内神社の壯嚴な社殿も皆、鏡川の清流によつて一層神々しさを增してゐるのである。散田山内邸の水哉閣は大正天皇が皇太子として行啓の節、御命名遊ばされたもので、今上天皇も亦皇太子の御時、此所に行啓遊ばされた事は、いともかしこき極みである。

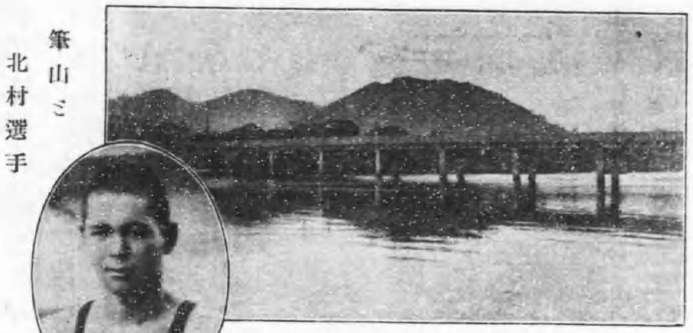
何時かの夜、柳原名物の狂火を見た事がある。ぱり〳〵と胸もすく樣な音を立てゝ、鮮かに描き出される火の文字、火の瀧、火の車、さては、中空に打上げられる色とり〴〵の光彈など、それが川水に影を映ずる美しさに、柳原を埋めた數萬の觀衆は、全く

筆山（潮江山）山形が筆の形をしてゐるのでこの名がある

魂を奪はれた事であつた。

鏡川が永く、高知市を育てゝ來た事はいふまでもないが、更に又、幾多の偉人をも育てゝゐる。坂本龍馬先生にしても、後藤象二郎先生や、板垣退助先生にしても皆、天神橋下の河童であつたらうし、近くはロスアンゼルスの競泳場で、其の名を世界に轟かした少年北村選手も、實に鏡川の生んだ河童なのである。

鏡川の上流地方には、日歸りの遠足に適する所が多い。水源にあたる工石山や、雪光山は、海拔一千メートルほどもあつて、登山によく、涼しい方では、樽の瀧



筆山と北村選手

ロスアンゼルス　アメリカ合衆國の太平洋岸の都會　昭和七年八月國際オリンピック大會が開かれた

や、横矢の瀧もあり、白岩の石灰洞・水力發電所などもある。一日の閑を得て、名物の鮎をはじめ、小魚釣ることも亦、中々の樂しみである。

やがて、日はとつぷりと暮れて、唐人町あたりの電燈がちらほらと水に影を映し、柳原ではこほろぎの涼しい聲が聞えだした。

高知市上水道設計　和田忠治氏
敷設決議　大正十年九月
起工　大正十二年七月
竣工　大正十四年四月
給水　今年四月
總工費　九十七萬圓
增設擴張費　四十九萬圓

二、上水道

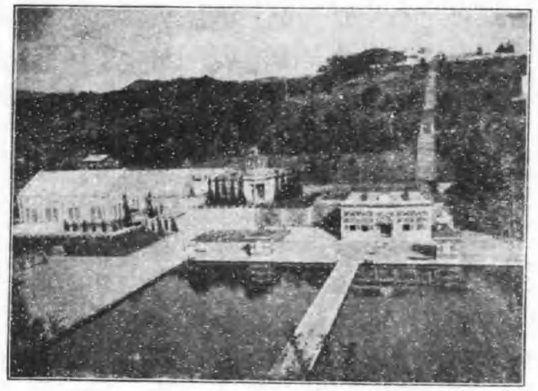
此處は旭驛の北西約四百メートル、海拔五十メートルの御殿山の頂上で、高知市上水道の配水池といつて、大きな水溜のある所である。私は今日、水道の事務員さんに案内せられて、下の淨水場を見學した後、今しがた、何百もの石段を踏みしめて上つて來た所である。何しろ高知市が百數十萬圓を費して造り上げた大工事だけに、此處から見下した淨水場の全景は如何にも立派なものである。

取水所

濾過池

淨水場からずつと南西の方へ眞直に走つた道の端に見える白色の洋館が取水所で、鏡川を横ぎつて底に埋められたコンクリートの筒の中にしみ込む川の水を吸上げて、此の下に見える廣い濾過池にまで送り屆けるポンプのある所である。取水所には二つの大きな水溜があつて、つい交つて來た砂や泥を沈ませることになつてゐる。

濾過池は、三つ行儀よく並んでゐるが、その中二つまでは青々と水をたゝへて、まことに涼しさうに見える。濾過池は淨水場で、最も大切な働をする所で、池の底が砂だから、水は絶えず底にしみ込んで



天神山公園より淨水場をのぞむ

浄水槽

次の浄水槽といふ大きな水溜に流れて行く。水が砂をくぐる時に水の中に含まれてゐた色々の細かい交り物が取り去られるのである。三つの池の中、一つ乾かしてあるのは、今、よごれた砂を洗つてゐる所ださうだ。

急速濾過池

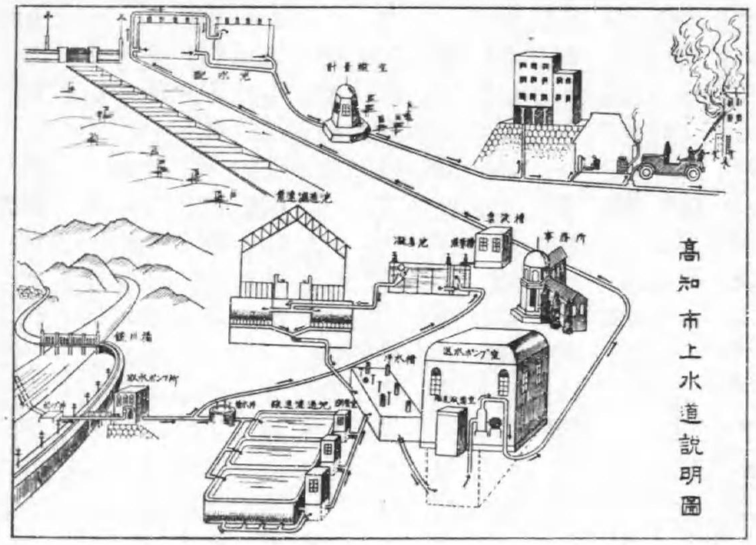
もう一つ急速濾過池といふ最新式のものが、右の端に見える新築の洋館の中に出來てゐる。これは前の池より四十倍程も速く水を濾すさうだが、その代り水は此の池に來るまでに、水を浄めるための薬品をまぜる池と、水中の交り物を沈ませる沈澱池とを通つて來るのである。急速濾過池の設備は實に精巧を極めたもので机上のハンドル一つで、濾過から砂の洗滌まで、自由自在に出來るさうである。此の池で濾された水も亦、浄水槽にたまるのである。

沈澱池

送水所

もう、浄水槽の水は飲料に適する立派な浄水となつてゐるが、

配水池



高知市上水道説明圖

石段のすぐ下の送水所まで來た時、念のために鹽素滅菌といふのを施して、強力な電動ポンプの力により、石段の下に埋められた大鐵管を通つて、此處の配水池まで一氣に押上げられるのである。

「では、配水池の中を御覽に入れませう。」と、いはれる事務員さんについて、暗い地下室へ一歩踏込むと驚いた。地上には所々にちらほらと氣抜の筒がのぞいてゐるばかりだが、中はとて

も大きな鐵筋コンクリートの水溜になつてゐて、青々と水がたゝへられてゐる。水は一方の入口から他方の出口へ曲りくねつて絶えず流れてゐる。水のきれいなせゐか、これ程深いのに、小さな電燈の光で底まではつきり見える。事務員さんは、「これがつまり高知市民共同の水溜ですね、まあ半日分位は溜ります。」と、いつて笑はれた。此の池の底から、大鐵管が高知市街に向つてかけ下りてゐるので、池の水は渦を卷いてこれに流れ込んでゐる。

配水管

鐵管は進むに隨つて多くの枝に分れ、次第に細かくなり、遂に家々に引込まれた鉛管の先の水道栓に終つてゐるので、水道栓をひねりさへすれば、水は勢よく噴出するのである。此の有樣は丁度、樹木の根から吸上げられた水分が幹から枝、枝から一つ〳〵の葉にまで送られるのと同じである。何しろ池の高さが、海拔五十メートルもあるので、それよりも低い市中では、鐵管中の水は大變な水壓を持つてゐて、何處からでも勢よく飛び出すのである。

其の他の設備

事務員さんのお話によると、今、高知市の水道は、鐵管の總延長が九万一千四百メートル、給水栓數が約一万、一日平均約一万立方メートルの水を要するさうである。

浄水場には、まだ事務所を始め、濾過した水を加減する調整室、市中に出る水量を測る配水計量所などの大小の建物が幾棟も並んでゐるが、何處を見ても、その設備の精巧さに驚くと共に、到る所、清潔に保たれてゐるのには感心した。又、試驗室では、技師が絶えず水質の檢査をして、飲料に適しない水は送らないから、私共は安心して水道の水の使用が出來るわけである。

水道の利益

此の便利な上水道が出來てから、多年飲料水の問題に苦しめられてゐた我々高知市民は、漸く安堵の思をしたのである。しかし上水道は、唯市民に飲料水・用水を供給するばかりではない。衞生

上、防火上からいつても、今日の文化都市には無くてはならぬものになつてゐる。此の水道が、傳染病豫防上にもどれ程隱れた大きな働をしてゐるかも知れないし、「すは、火事。」と、いふやうな時には、街路の所々にある消火栓にホースを取付けさへすれば、水は瀧の如く飛び出すのである。私は水道の有難さをしみ〳〵感ずると共に、水道栓から流れ落ちる一滴の水でも、かうした手數を經てゐることを思へば、決して無駄にすべきものではないと考へた。

御殿山の眺め

事務員さんに丁寧にお禮を述べた後、此の御殿山から打眺める四方の景色の快さ、西は鏡川橋あたりより、東は高知公園から浦戸灣まで一目に見える。それに、すぐ向ひの天神山公園と共に、櫻が多いものだから、春の花盛りには、朝から晩まで花見の客で賑はふ、高知市の新名所になつてゐる。

第二十一　土佐の民謠・童謠

民謠や童謠を口ずさむと、其の地方の特色が味はゝれ、祖先の魂がひし〳〵と身にせまり、又幼い頃の思ひ出が、次から次へとわいてくる。

（民謠）ヨサコイ節

郷土民謠の代表はヨサコイ節であらう。男性的な調子と、明るい氣分、そして其の歌詞にも、土佐のほこりと土佐人の性格とがよくあらはれてゐる。

池とは土佐灣をさす

いふたちいかんちや俺んくの池にや、潮ふく鯨がおよぎよる。

御疊瀬浦戸山の謠

土佐はよい國南を受けて、薩摩嵐がそよ〳〵と。
みまい見せましよう、うら戸をあけて、月の名所は桂濱。
山を眺め山を友とし、山にはぐくまれてゐる土佐人は、山に大

きなあこがれを持ち、これがやがて民謡となる。木びき謡によつて山の情緒をさぐつてみよう。

木びきさん等は根も葉も殘す、いやぞ樟腦たきや根まで堀る。
韮生のかづら橋や蜘蛛の巣の如く、風が吹きや又ゆさ〳〵と。

田園の謡にはお百姓さんの精神がよくあらはれてゐる。舊五月の虫送りは、農家の年中行事の中でも特に名高いものであつた。お百姓さんは隊をつくり幟押したてゝ、鉦や太鼓をならしながら

齋藤別當實盛、稲の虫やひしやげた。
とはやし謡も面白く、田舍道をねり歩くのであるが、此の風はだん〳〵にすたれていく。

なつかしみの深いのは田植謡である。大勢の早乙女が、青いすげ笠に赤いたすきで、節面白く謡ひながら、早苗を植ゑる美しさは、さながら一幅の繪である。其の他、草取り・籾摺り・粉ひき・茶摘

田園の謡

齋藤別當實盛が田の中にふみこみ、その草鞋に稲の虫がわいたといふ傳説がある。

みなどの謡にも、それ〳〵野趣に富んだものがある。

五月三十日は早乙女様よ、
それをすぎたら唯女。

謡うて草取れ笠買うてやろぞ、
はやる高知の絲縫を。

いやなものぞよ唐臼の根ごり、
ほこりやかづいて骨や折れて。

粉ひきばあさんいくつで御座る、
わたしやひき木と同いごし。

お茶はつみ時嫁入りし時、
花は咲きごきしをれ時。

大漁旗をなびかせて

海濱の謡

土佐は海幸の多い國である。海に關する民謡には、水産王國の面目がをどつてゐる。千里をわたる海風

に大漁幟をなびかせて、歸りをいそぐ漁船から湧きおこる大漁謡や、鰹節製造工場からもれてくる、勇しい節造り謡は、海國若人の心をふるひたゝせる。

山が見えたぞ窪津の沖で、あれは鯨の山ぢやもの。

聲をきくより節よきゝなされ、土佐の名物鰹節。

（童謡）

自然、虫類の謡

次に童謡で最も親しみの深いものを拾つてみよう。自然の風物や鳥獣虫魚は、幼いものにとつては親しいお友達である。土佐は暖國であるから、たまに雪が降らうものなら、寒さを忘れて此の久しぶりのお友達を歡迎するのである。やけつく夏の日、暑さを忘れてのとんぼとりや、虫のお友達と遊ぶのは、ほんとにたのしいことである。

雪やこんこ　霰やこんこ、
お寺の柿の木に、

降れ降れとまれ。

赤岡の市で七日の市で明後日の市で

とんぼとんぼ　おとまり、
あしたの市で、
鹽買うてねぶらしよ。

東やどつち西やどつち

子守謡

けらさん　けらさん、
お前のお茶椀　どればあぞ。
子守謡を謡ふと、母様のお膝で、すや〳〵と眠つた幼い頃の事がよみがへつてくる。

ねーんねーん　ねーえんよ、
泣いたら子も泣く守も泣く、
寝たら子も樂守も樂、
ねーんねーん　ねーえんよ。

遊戯謡

てまり謡

昔今の鼻ケ松

種々の遊戯をしながら謡ふのには「いつちく、たつちく」のもみぢのやうなお手々の遊びから、「ちん〳〵ちこさん」「大波・小波」は女の子、男は風の子の凧あげ謡など様々あるが、變化して意味のわからないものも少くない。又同じ謡にしても、各地で少しづゝちがつて居るのを、くらべてみるのも面白い。

最後に、てまり謡もいろ〳〵あるが、これは昔の、高知町づくしをうたつたものである。

高知の松が鼻　番所を西へ行く、
農人町・菜園場　新堀・魚の棚・紺屋町

高知名物

種崎町をうちこして、京町行くとはや
會所がたつて居る、程なく使者屋をうちこして
堺町、本町八丁通します、そこらで升形
本丁つき抜け、一丁・二丁・三丁・四丁
五丁目の觀音堂で　をさめた。

民謡は變遷のはげしいものである。こゝにあげたものにも、すでに時代をすぎたものが多い。あしたに生れて夕に消えるものもないではないが、この頃、面白い新作も出來て居る。

第二十二　名物あさり

正雄は東京へ歸る日が近づいたので、何かお土産をと思つて、一夜伯父さんに、「高知の名物は何ですか。」と、お尋ねした。

「名物かね、それはいろ〳〵あるよ。昔から、『土佐の名物珊瑚に鯨、紙に生絲に鰹節。』と歌はれたり、『孕の廻し打ち、日暮に歸る帆傘船、年に二度取る米もある。』などといつて、中には南國特有の情味のあふれたものもあるよ。

珊瑚

珊瑚の産地は幡多郡月灘村沖で、其の地方の民謠に、『お月灘桃色、誰が云ふた、海女が云うた。海女の口ひきさけ。』といふのがあつて、舊藩政時代には、土佐にさうした名産がある事を封じた事もあるやうだ。

珊瑚はぼけ・桃色などが極上品で、赤・白珊瑚は之に次いでゐる。高知では其の加工が盛で、店頭には美しい玉・根掛け・帶止・カウスボタン・印材・置物などが飾られてゐる。

養殖眞珠も名産で、横波三里の浦之内は志摩半島の英虞灣と共に其の名を知られてゐる。

鯨はもと室戸岬あたりが漁場で、昔は、鯨の行く手に網を張り、手に〳〵銛を持つた漁夫が小舟に乘つて鯨に近付き、銛を打つてしとめる、ずゐ分勇壯なとり方をしてゐたさうだ。それが後に、大砲を備へたノルウエー式捕鯨船にかはつたが、此の頃では鯨があまり居らなくなつたので、名物の鯨の話は土佐の昔話になりかけてゐる。

しかし新鮮な魚肉の豐富なことは水産高知の誇りである。水産製造物も大變多い。特に有名なのは鰹節で、土佐節の名が高い。主産地は幡多郡清水・高岡郡宇佐で、大きな鰹は三枚に身ををろし、二つに割つて本節とし、小鰹は三枚にをろして龜節にする。又鮪

蒲鉾

和紙
生糸
セメント

廻し打ち
帆傘船

二度取る米

節の産出も少くない。

蒲鉾といつて魚肉のすりみを十五センチメートル許の板に附けた物もあるが、味はまことによく、數日の保存にも堪へるので、よく土産品などに選ばれる。蒲鉾に似たものに簀卷・竹輪といふのもある。

『土佐半紙』で名高い和紙の産額は日本第一である。生糸やセメントの産額もなかなか多い。

廻し打ちに帆傘船は、風光明媚な浦戸灣の景趣を添へるものである。

二度取る米は臺灣を除いては、暖國土佐の外には見られないであらう。七月の末が來ると、一方では稻刈り、他方では田植といふ珍らしい風景が見受けられる。阪神の市場に出る新米は、全國での先走りである。

促成栽培

木材及加工品

闘犬ミ長尾鶏

高知市の農家や海岸地方の農家では溫床を作つて、胡瓜・南瓜・西瓜・茄子などの促成栽培が行はれ、果物としては楊梅・枇杷・栗・桃などを早く積出して、阪神方面の人氣を、わき立たせてゐる。

土佐は全國的の木材産地で魚梁瀬杉をはじめ、木材・新炭の移出が相當多いが、高知市には千歳杖と云つて、松の梢で作つた素朴な杖や、化龍杖と云つて、一本の竹で數本の杖を絡ませて作つた風雅な杖などもあれば、杷柳細工のバスケット・行李なども産する。

工藝品

工藝品では、古代塗と稱して、硯箱・煙草盆・應接机などに製し、中々古雅であり、堅牢なものがある。市の近郷で產する、尾戸燒も亦すてがたい雅趣をもつてゐる。

鍛工品

鋸・刄物などの鍛工品は近來、堺の製品をしのいで『土州產』の譽高く、釣道具も他府縣より注文が殺到するさうである。

菓子類

次にお菓子だが、高知の名產は何といつてもケンピとツブである。

玩具類

妹へのお土產は矢張り玩具にしやうね。着替人形か、女達磨か、寶船あたりがよからう。

長尾鷄

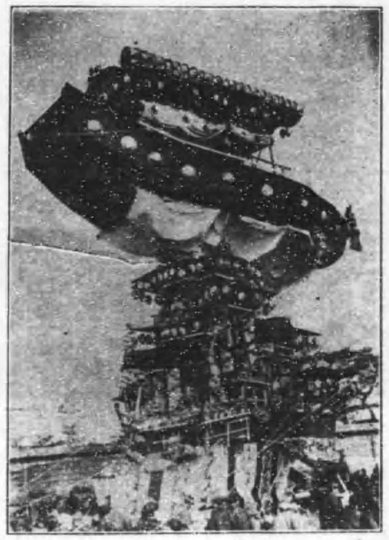
動物では長尾鷄と鬪犬が有名だ。長尾鷄の原產地は高知市から十キロメートル許り東の篠原といふ所である。尾の長いものになると五メートルにも及ぶものがある。これは昔藩政時代に、土佐藩主が參勤交代で江戸へ上る時、槍の先に附けた長い尾を誇るために、改良されて出來た鷄ださうで、今では文部省の天然記念物に指定せられ、『シノハラ』といふ學名は全世界に聞えてゐる。

鬪犬

鬪犬は大きいのになると、お前が地に這つた位ある。時々鬪犬大會があつて見物人が山を築くが、此のあたり『尙武の國土佐』の面影が殘つてゐるやうだ。

花臺

又、高知名物に花臺といふのがある。二階、三階と高い屋臺を組み、赤い屋根、赤い柱に美しい布を張つて飾り立て、人形を据えて、美しく着飾つた老若男女が、鐘・太鼓・三味線・胡弓などの囃子に合せて曳いて行くといふ、まことに面白い催し物である。



花臺

日曜市

それから高知の日曜市は珍らしいもので歷史も亦古い。日曜毎

に縣廳前から東の帶屋町の兩側は、日用品・雜貨・農産物・植木・草花など、あらゆる露店で埋まつてしまふ。

日曜市

農家などは夜の道を踏んで十キロメートルからの田舍から賣物に出るし、街路は人の洪水の樣で身動きもならない。所々、見せ物の掛小屋さへ出來て、客を呼ぶ聲、色々の鳴物、まるでお祭の樣な賑やかさである。此の市で賣買せられる金額は相當多額に上り、高知市と近鄕このお互の繁榮にも重大な役割をしてゐる。

まだ色々話したい事もあるが夜も更けたから、これでお寢み。明日は丁度日曜日だ。市から物產陳列

所なども案內してあげやう。」

第二十三　青年の修養

藩政時代の教育

愼吉は夕飯が終ると直ちにお父さんに問ひかけた。

「この間のお話で維新の頃の我が土佐人の活躍はよく分りましたが、其の活躍した人々はどんなに學問をし修養をしたのでせう。」

お父さんはにつこり笑つて、

「では。少し難かしくなるが先づ順序として藩政時代の教育の事から話さう。其の頃の土佐、いや土佐に限らず、今の中學校や小學校は何れもまだ出來てゐなかつた。又今日のやうに義務教育でもなかつたから學問をしたい者はする、嫌な者はしないでもよいと言ふわけであつた。然し我が土佐は南學の盛であつた關係から

藩校
1教授館
2致道館
3醫學館
4開成館

學問は重んぜられてゐた。野中兼山先生が學問を奬勵した事は既に話した通りである。

又八代藩主豐敷公は大變學問を御好みになり、教授館をお建てになつて藩士の教育に力を用ひられた。之が藩校の起りである。後、又豐範公は容堂公と謀られて吉田東洋先生に命じて致道館を建て大いに文武の道を勵まされた。藩校は言はば今日の縣立の學校に相當するものであらう。

東野の門人
中著名の者
中岡慎太郎
本山只一郎
土方　久元
西村　亮吉
岩村誠一郎
安岡貫之助
宮地　宜藏
大石彌太郎

尙此の藩校の他に儒者の開いた私塾や寺子屋がたくさんあつて、効果をあげてゐた。此處に面白い事は維新の際に國家の爲に働いた志士には私塾で學んだ者の多い事である。例へば岡本寧浦先生の塾からは、武市半平太先生や間崎哲馬先生などを、竹村東野先生の塾からは中岡慎太郎先生等を出してゐるが如きはその著しいものである。」

寧浦の門人
中著名の者
武市半平太
岩崎彌太郎
岩崎　秋溟
清岡道之助
清岡治之助
間崎　哲馬

慎吉は吉田松陰先生の松下村塾から多くの人物の出たと言ふ御話を思ひ出し何か其處に似たところがあるやうに思つた。

父は更に言葉をついで、

「古來土佐における學問の精神は大義名分を明らかにし、實踐躬行を尊ぶといふ事であつた。此の學問の精神が、維新の志士の心に深く喰ひ入り、あの花々しい活動となつて現れた事と思はれる。此の精神が我々の修養の根本ではあるまいか。

日常が修養

昔の人達はどこまでも、實行といふことを重んじたものだ。實行し體驗するといふことが、何よりもの學問であり修養である。決して書物に限られたものではなくて日常生活がことごとく學問となり修養となるのである。例へば病氣をしてさへ、學問にもなれば又修養にもなる、早起一つするもまた修養だよ。」

青年訓練所と青年

青年訓練所の教練

此の時まで靜かに話を聞いてゐた兄さんが口を開いて、

「如何にもお父さんのお話の通りです。私が青年訓練所へ通ひはじめました頃は、朝々つらい思ひをした事もありました。ところがこの頃ではもう朝起が習慣になつて朝寝をするのが却つて氣持惡くなつてきました。」

「さうだ。お前の朝起は近頃感心するよ。入所以來の皆勤でこの間も査閲でほめられたさうだね。叔父さんも『自分の内にゐる青年を、訓練所に入れてから、態度がはき〳〵して仕事がよく出來だした。』と、話し

青年訓練所の目的

青年團に下し給つた令旨

て居られたが實に結構なことである。」

愼吉は青年訓練所とはよく聞くことではあつたが、充分知らないのでお父さんに尋ねてみた。お父さんは、

「高知市では大正十五年七月に五つの訓練所の開かれたのがそもそもの初めである。初めの頃は入所者も少く、又缺席者も多くとかく不振であつたが當局のお世話と、市民の自覺によつて、年々盛になり、昭和十年度から、各小學校へ訓練所を設けるといふすばらしい勢になつたことはまことによろこばしい事である。そして訓練所の目的とする所は青年の精神と身體とを鍛へて國民としてのねうちを高めやうといふところにある。

畏れ多い話であるが、今上陛下がまだ東宮殿下であらせられる時青年團に令旨を賜はつて、

『國運發展ノ基礎ハ青年ノ修養ニ須ツコト多シ』と仰せられてゐ

る。この仰せの如く青年は國家の基礎であり、原動力だからね。お父さんは一人殘らず青年訓練所へ入つて國家の期待にそひたいものと何時も思つてゐる。青年團や、處女團も、近頃組織がとゝのふて、だん〳〵活動が盛んになつてきては居るけれども、まだなか〳〵自覺せんとならぬよ。」

と結んだ。兄さんは如何にも晴れやかに、

「さうです。私達の毎日の仕事は小さくても眼は常に國家に置きたいのです。丁度小さい露の玉が大きな月の影を宿すやうに。私は青年團でも、訓練所でも、なんでも打つて一丸となつて土佐魂の意氣を示したいと思ひます。」

「さうだ。個人としてすぐれてゐる土佐人に、一致團結が出來ればそれこそ鬼に金棒だ。」

愼吉は常に實業のかたはら更に實務についての勉強をしたいと

思つてゐるので、其のことに就いてお父さんに尋ねた。

「それにも色々あるが、高知市の經營してゐるものとしては商業、工業の實務學校であらう。今は日進月歩の世の中だから商業に從事する者には商業の、工業に從ふ者には工業の知識を授けやうとするのが目的である。そしてどちらも夜學校で、晝間は自分の仕事に從ひ、夜間勉學するに都合のよいしくみに出來てゐる。商業實務學校は市立商業學校に、工業實務學校は市高等小學校に併置されてゐる。詳しい事は學校に問ひ合せてみやう。」

工業實務學校の學習

青年學校

最後にお父さんは、

「本年四月からは、青年訓練所と補習學校とが統一せられて、青年學校といふことになるさうであるが、實に喜ばしいことだ。兎も角、今後の青年教育といふことは國家第一の問題だよ」

愼吉はお父さんと兄さんの話で得るところの多かつたのを喜んだ。そして土佐人の意氣を示す立派な日本青年にならうと思つた。

第二十四　公衆の衛生

大掃除

「お母さん。市役所から明日は大掃除だと、いふふれが來てゐましたね。僕も、明日は日曜日だから、お手傳をしますよ。」

その朝は、早くから英太郎は身がるなかまへになつて、父母と三人で疊を運ぶやら、天井のすゝを拂ふやら、箪笥を運ぶやら、隅から隅まで掃き淨めた。表通りは家々の道具や疊でふさがつて足のふみ場もない程で、疊をたゝく音、道具を運ぶかけ聲、まるで戰場のやうであつた。掃除の中を市役所の方がまわつて來られて、

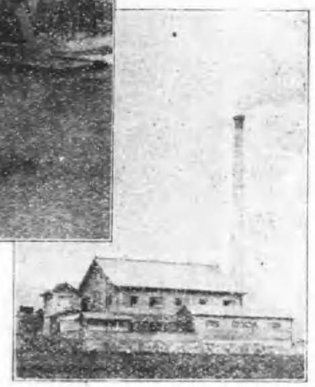
大掃除

「なか〳〵よくお掃除ができましたね。」

とにこ〳〵顏でした。そして「檢査濟」といふ札を父に渡されながら、

「大掃除も昔とちがひましたね。昔は大掃除と云へば、ほんの申譯でそこそこにすましてゐましたが、此の頃は人々が公衆衛生といふ事に目ざめて、めい〳〵がすゝんでする樣になつたので、檢査も餘程樂になりました。」

塵のしまつと塵焼き場



塵芥焼却場とその内部

何處の家へ行つてもきれいになつて、町が明るくなつた様な氣がといつて喜んで居られた。

「お父さん、掃除の事なんか、なぜ市役所にごやくかいをかけるのでせう。」

「掃除は自分の事であるから、勿論自分でしなければならないけれども、大掃除となると、都會地では他人の迷惑になつたり、又忙しい其の日其の日の生活の爲めに、つひのびくしして、機會を失つたりするものだから、町中が一しよにすれば都合がよい。こんな事などが公民としてのつとめだ。今日はするね。年二回の大掃除だのに、路を見てごらん、あれ程たくさん塵があつたよ。」

うづ高くつんであつた塵は、何時の間にか人夫さんが集めて運んで行つてくれた。大掃除の時ばかりでなく、毎日できる塵もかうして、下知にある焼却場へ運んで灰にするのだ。病氣は重に不潔からくるもので、お互が清潔に注意する事は、大切な社會の道徳ですから、お互に餘程氣を付けねばならない。

「町で傳染病ができると、ずゐぶん困るでせうね。」

「さうだね、町は田舎と違つて交通がしげく、人家もこんでゐるから、何時傳染せんとも限らない。一度コレラ・ペストの様な激しい病氣が流行しようものなら、人心は不安で、町はまつくらがりとなるよ。

明治十二年頃の、コレラ病の流行は、またひどかつたね。これに

傳染病

かゝつたら、直ちに死ぬるから、別名を「トンコロリ」とも云つた。公衆衛生に對する考が、幼稚であつた爲めに、すぐに傳染して、死人の柩が間に合はず、火葬にすることもできず、桶に入れて其のまゝ、潮江山にどんどん葬つたと云ふことである。衛生設備の完備した今日であつたら、決してこれ程悲慘な目には、あはなかつただらう。」

「市役所の衛生方面に、どんな設備があるでせうか。」

「くわしく云へば、幾らもあるが極大きなものをいつてみやう。

上水道の設備

上水道の設備も、たしかに衛生上たいせつなものである。昔は高知市にも、井戸水や川の水を、飲料水としてゐた時代もあつた。其の時分には、悪病が川上で流行すると、川の流れに從つて、病人ができる事もあつた。地下水にまじつて、井戸水に出る黴菌もあるから、中々ゆだんができない。今では水道ができて、傳染病

はたしかに尠くなつたはずだ。

用水路、悪水路の掃除も、定期にしてくださるので、黴菌の繁殖場を尠くすることができた。鼠蠅等の驅除の指導をしてくれるので、傳染のなかだちを防ぐやうになつた。

城西病院

城西病院は市立で大切な役目をしてゐる。

市民が傳染病（法定傳染病にして、コレラ・赤痢・チブス・ヂフテリヤ・ペスト・痘瘡等）と診斷せられたら、直ちに市役所に、屆出をせなければならない。そうすると市役所から、消毒に來て下さつて、傳染の憂がないやうにして下さる。患者はすぐに、城西病院又は、その他の病院に入院することになる。城西病院では、お金は一文もいらないで、親切にお世話をして下さることになつてゐる。世間では此の種の病院の事を、間違つた考を持つて、病を隱して入院をこばんだ人のあつたのは、ばかげた話で、公衆に對する大な

診療所

る罪惡だね。

城西病院内には、市立診療所も附屬してゐる。傳染病でないほかの病氣でも、十分に養生のできない人達に對して、方面委員さんのお世話で、診察から藥價まで、無料にしてくれることまである。

健康相談所

この外に市立健康相談所がある。東部（浦戸町）中部（城西病院内）西部（旭）にあつて、一般市民の誰でもが、健康上の相談をもちだすことができる。一ケ年間約一萬の受診者が、あるときいてはおどろくではないか。かやうに數へ上げれば限りがない。

衛生課と衛生委員

市役所の衛生課の方や各町の衛生委員の人達が、ひたすら公衆衛生の普及と傳染病の豫防に努めて下さつてゐるので、年一年と進んではゐるが、まだ〳〵滿足はできない。

家々の臺所や、便所などにも尙改良の餘地があるやうに思ふ。一般公衆衛生思想が發達すれば溝や小川はもつと清潔になるはずだよ。」

やがて英太郎はお父さんとお湯にいつた。お湯屋もこの頃一だんときれいになつた。

第二十五　美術と工藝

高知城

高知市および附近には上古よりの史蹟とともに、名高い社寺の遺つて居るものが少くない。したがつてこれらの社寺には、優秀な美術工藝品が頗る多い。今順を追うて美術めぐりをして見よう。

まづ國寶高知城で、現存するは追手門・天守閣・本丸正殿及び玄關・東西多聞櫓・黑鐵門・鐘樓・廊下門・鹽倉・詰門などである。本丸正殿には上段の間があり、左右に書院構・納戸構が完備して居る。天守閣は

外から見ると三層であるが、内部は六層になつて居り、入母屋造の屋根の棟には、青鯱が威勢よく天にはねて居る。廻廊に高欄をめぐらしたのは、珍らしい造りで、これは遠州掛川の故城をまねたものだといはれる。また追手門の雄大さ、扉の肱壺の堅牢さはそゞろに藩政時代の威勢をしのばせる。

天守閣はさのみ廣大ともいはれぬが、山の姿によく調和して、すつきりと品のよい威容を綠樹の上にあらはして、永く市民の懷古の的になつてゐる。

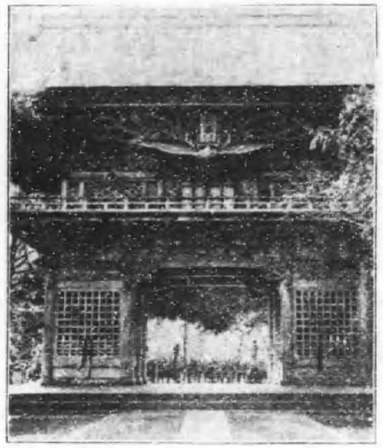
潮江天滿宮

天滿宮は、綠したたる筆山の麓、鏡川の清流にのぞんでゐる。一千餘年の昔、菅公の長子高視が潮江の高見に流されて居て、公の薨後、送りとどけられたかたみの品をこゝに祀つたといふ、由緒の深い社である。

春日造りの本殿、簡單な權現造りの拜殿は、先年火災にあつて、

竹林寺

再建されたものであるが、大たい昔の姿を傳へて居る。社頭の樓門は、幕末の嘉永年間に土佐の名工島村三四郎翁の建てたものである。精巧をきはめた斗拱と、まはりを裝飾した人物や花鳥の彫刻は、いづれも人目をひき、正面階上に高く掲げられた鳳凰の翔る姿は、翁の作で、土佐では有名な彫刻である。



天滿宮樓門（潮江）

五臺山竹林寺の本堂は、國寶に指定されて居る。江戸時代の初期寛永年間の再建であるが、建築の樣式や、彫刻・斗拱等すべて昔のまゝと思つてよい。柿葺入母屋造宋風の禪寺建築で、屋根裏は扇垂木になり、斗拱や蛙股などの透彫は、あつさりして優美である。内陣の格天井も精巧を極め、そ

の中央には天女舞踊の極彩色圖があり、正面の須彌壇は、華麗な裝飾をほどこしてある。

本堂の南にある大師堂や、東下にある客殿も、ともに江戸時代の再建であるが、いづれも立派な建物で、古雅な庭園も見事なものである。

寶物に十九體の國寶佛像があり、中にも本尊の文殊菩薩像は傑作で、藥師如來・阿彌陀如來・千手觀音・大威德明王の像なども優れた作品である。弘安七年の銘ある梵鐘や、磬といふ樂器も亦、立派なものである。

高知市の東北約五粁、一宮にある土佐神社社殿も國寶で、元龜二年長宗我部元親公の再建にかゝり、凱旋の歸陣にかたどつて、勝虫の異名ある蜻蛉の形になぞらへた珍らしい樣式である。鉋のない時代で、舞鉞を用ひ、荒けづりながら雄大莊重にできてゐる。

これは戰國時代の豪壯な意氣のあらはれたもので、入蜻蛉の樣式ともに、我國神社建築中たぐひ稀なものと稱せられる。

本殿の軒先の反りの大きい點は宋風の影響と見られ、柱の上の斗拱も優美、蛙股に草花の透彫を施したのや、屋根の樣式などは、日光東照宮建築の手法をさきがけたものである。其他各種の彫刻にも入神の技を揮つてある。幣殿はその前にあつて、格天井の中央には、まだ墨痕鮮かな狩野元俊筆の蟠龍の圖があり、壁板は三十六歌仙の極彩色畫を以て飾られてゐる。拜殿は中央が一段高く、その高屋根を中心に、東西に長い翼廊と、之に直角に南方に長い向拜とが、所謂入蜻蛉の形をして居る。幣殿・拜殿、更に向拜から左右外側の椽へと、順に床を低くし、且つ壁や戸板を少くして、大きくとつた廣前に、元親公以下の諸將がきら星の如く居流れて、凱旋の式をあげて居る光景がしのばれて、懷古の情をそそられる。

雪蹊寺

社殿の左手、國寶の鼓樓は二代藩主忠義公の再建したもので、階上に高欄をめぐらし、彫刻も優美である。

本社には鯰尾といふ全國に珍らしい古代の鉾、藤原時代以降の銅鏡四十餘面、太刀・甲冑・能面・古文書など、寶物も頗る多い。

國寶毘沙門天の像（雪蹊寺）

長濱の雪蹊寺は、建築の規模こそ小さいが、古い由緒のある寺で、國寶の佛像が十六體も藏せられて居る。中にも湛慶作の銘ある毘沙門天像・吉祥天女像及び童子像は、剛健な鎌倉時代彫刻の特色をあらはし、土佐の如き遠國にはめづらしい傑作である。

東隣の秦神社には長宗我部元親公の木像をお祀りしてある。近傍の若宮八幡宮は、土佐神社に對して出蜻蛉の建築樣式で知られて居る。

畫家

高陽山人筆蹟

なほ國府村の國分寺や、遠く豐永の藥師堂なども著名な建築物であるが、こゝにはぶくことにしよう。

次に繪畫では、江戸時代中期の中山高陽先生が有名である。市内堺町の人で、壯年の頃江戸に學び、高陽山人といつて、儒學・詩文にもすぐれた。氣品の高い多くの傑作がのこされて居る。

彫刻家

彫刻家の武市甚七翁も著名である。翁は高知城の再建に當つて、殿中の欄間に畢生の腕を揮つた。その遺作が今も懷德館に藏せられて居る。

また廿代町神明宮の馬の額や、八百屋町川崎氏藏の久米仙人像も

尾戸燒・古代塗

尾戸燒

古代塗

有名である。

高知獨特の工藝品には尾戸燒と古代塗がある。

尾戸燒は江戸時代の初期に、陶工久野正伯が二代藩主に招かれて、江の口の小津（公園北麓）に窯を築いたのに始まり、土質は上等でないが、素朴で氣品のある陶器である。今は能茶山にその名が傳はつて居る。

古代塗は明治の初めに、種田寶水翁が創めたもので、支那古代の漆器に範をとり、色彩や模様に工夫を凝らして、古色を出したもので、堅牢で高雅、次第に眞價をうたはれつゝある。

近時鄕土工藝品については市の各方面で考案されて居るから、次第に新しい優秀なものが案

華やかな反面

方面委員

出されて、鄕土の誇りが增すことであらう。

第二十六　社會施設

私共が見る世の中は、多くは表面如何にも生氣の溢れた華かな明るい生活の人達ばかりのやうであるが、併し其の反面には、貧困に、病苦に、或は失業に泣いてゐる人の多いのを知らなければならん。是等社會の暗い反面の救護に任ずると共に進んで防貧施設をなすといふことは甚だ大切なことである。此の事業を特に社會事業といふ。さて我が高知市にどういふ施設があるか其の主なるところを巡つて話を聞いてみることにしやう。

方面委員と門札のかゝつてゐる、或る家を訪ねてお話を聽いた。

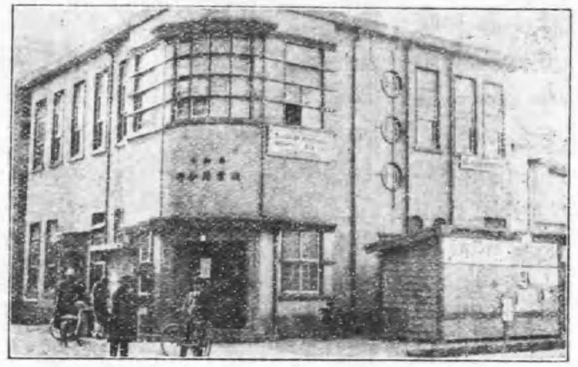
「方面事業は御承知でせうが、現在九十二名の委員によつて、九

區に分れた區域の人々につき、暮しの有様を注意して、若し不幸な家があれば救濟の勞をとつてあげたり、其の他生活の改善や教育、育兒、職業上の相談にあづかつたりするのです。」

「さうですか、なか〳〵大切なお仕事で、さぞ御骨折りでせう。」

「かうして廻つて救濟してゐると色々涙ぐましい話がありますよ。今日は、父に死に別れ、母は今病氣になつて働く人もなく困つて居る子供の家に行つて、母には醫師の施療券をあげ、子供には學用品代や食料等などを下さる様市役所に、手續をしてあげました。人によると、貧困で行きつまつてゐても、ほいそれと救濟を仰がふともしない、まあやれるところまでやつて見ますといふ元氣な方もあります。「武士は喰はねど高揚枝」やつぱり日本人の血が流れてゐる。いぢらしくて、思はずほろりとする時もあります。いくら貧しくても心のしつかりした人を見ると、何だか尊いやうな

職業紹介所



職業紹介所

思ひがして何とかして救つてあげなければ同じ日本の國民として申譯のない様な氣が致します。そして私達は救護委員として救護にあたるのみでなく、なるべく自力更生の途をかうじたり、我國古來よりの美風である隣保扶助によらしめる様努力してゐるのです。方面委員の尊い體驗談を聽いて夕方家へ歸つた。

或る朝公園通りに建つてゐる洋館造りの職業紹介所を訪れた。扉を開いて入つて見ると早、係の方は求人調査票をめぐられながら、群る求職者に一人々々職業の内容を説明されてゐる。

「君、こんな譯だからこの仕事は、君に適してゐるうんと精出してね。」一人々々懇切に紹介の勞をとられてゐる。又求人のある毎に求職の家に通知を發したり、呼び出したりして大變お忙しいやうであつた。打ち沈んでゐる人も職を得て俄に晴かになり、お禮を述べて門を出て行く有樣はよその目にもうれしい氣がする。所長さんは、

「こゝは職を失つた方に對して仕事の世話をしたり、求人の需に應じたりして雙方の便利をはかつてゐる所で、引いては世の中の産業發達にも無くてはならない機關でありますから一般市民の方もこの紹介所を理解して貰つて大いに利用して貰はなければなりません。」

と話される。

尙小學生の就職に就いては學校の先生と連絡してそれ〴〵適材を

適所に紹介され就職後も何かと氣を付けて、指導し下さるし、又時々慰勞會もお催し下さるとの事、職を得た子供達の元氣な希望にみちた顏を見るのが何より嬉しいそうです。

保育園

次ぎに保育園を訪れた。

保育園は旭と下知の二箇所に出來てゐる。大人の職業と非常に關係がふかいのである。幼な兒を預つてお世話下さるのでお母さんが非常のやすかり、安心して工場に働くなり、商賣に出るなり、其の外色々の賃仕事も出來るのである。

こゝは保育園の庭、まだ乳を飲んでゐるやうな三つ位の幼な兒も居れば、七つ位の兒も居る、皆が遊びに

餘念がない。むつがる子供は先生がおぶつてゐられる。

「さあみなさんこれでお手を洗つてご飯をいたゞきませう。」

といふと一齊に手を洗つてお辨當の包を解いて百餘名の幼兒と先生とが共に、にこ〳〵してたべる。まるでお母さんのやうなお世話をして下さつてゐる。夕方になると、お母さんはお仕事から保育園によつてお子供を受取り母と子が手を取合つて笑顔で先生にお禮を述べ歸つて行く有樣は洵に涙ぐましい思ひがする。

次ぎは公設市場に立ち寄つた。

公設市場

公設市場

市費で、市場を經營して、極く安い手數料を取つて店を開かしてある。物價も市の監督のもとにやつて居るから安價に賣られてゐる。常に買手が黑山の樣に群つて全く眼の廻る樣な忙しさである。私は此の有樣を見て、競爭のはげしい世の中にこれ等の行き屆いた施設に對して市當局を有難く思つた。

社會事業として右の外に帶屋町や鴨部に公設質屋がある。此所は小きい商賣をするとき等の資本をかしだして、獨立自營の職業にも就く樣な便利を與へてゐる。

其他西弘小路には、救護所の設がある。養つて呉れる身寄りのない孤獨の老人や、寄るべなき病人、旅先で患つた者等を、收容して世話をしてゐる所である。

この外に高知市健康相談所、高知市立診療所などがある。

市内にある私設社會事業として、双葉の園、高知慈善協會、海南救濟會など尊いそして眞劍な活動をされてゐる。將來此の施設は

公設質屋

其他

次第に多くなることであらう。吾等は此の施設に對しては大いに感謝し、その精神を理解すると同時に餘りに賴り過ぎることがあつてはならない。自治體の一員として先づ自分の責任と義務を果し大いに共存共榮の實をあげなければならないと思ふ。

室戸岬見物

月見山

第二十七　名勝をたづねて

秋晴の日曜日、兄と、父にともなはれて室戸岬を見物した。午前八時半、播磨屋橋から室戸岬遊覽自動車に乘つた。廣々とした香長の平野の二番稻はもうすつかり色づいてゐる。後免をすぎた頃、安藝通ひのガソリン車を見かけた。赤岡・岸本をすぎて夜須に近づく頃、父は左手の山を指さして、「あの記念碑の見える所が土御門上皇の御遺跡地と傳へられる月見山だ。」と教へて下さつた。

手結

安藝町

田野町

魚梁瀬の森林

やがて自動車は手結山の急な坂道にかゝる。右手にひくゝ手結の港や、それにつゞく海水浴場が丁度パノラマのやうに見える。十時安藝町に着いた。こゝは東郡第一の町で、中學校もあれば高等女學校もある。室戸岬への中程であらう。

北方、井の口村には、岩崎彌太郎先生の生家が殘されてゐるはずだ。自動車は海を右手に、岬をすぎ、松原をぬけて進む。田野町をすぎた時、父は北方の山をゆびさして、

「この奈半利川の上流に有名な、魚梁瀬の大森林がある。木材は鐵道でこゝまで運ばれてくるのだ。」と、いつて、いろ〳〵本縣の林業について教へて下さつた。道の左右には、木材が山のやうにつまれてある。

濱口雄幸先生のお家もすぐ近くにあるさうだ。

室戸町
室戸岬町

自動車は室戸町を過ぎ、室戸岬町についた。こゝの津呂港は昔野中兼山先生が修築された跡で、室戸町の室津港と共に、重要な漁港だ。

室戸岬

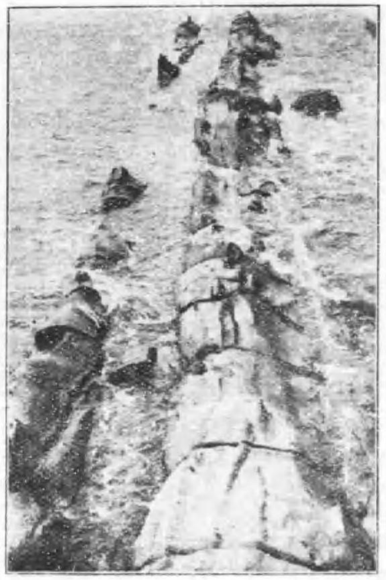
室戸岬燈台

正午すぎ、いよ〳〵室戸岬についた。自動車をおりて遊覽歩道をあゆんだ。さすが日本新八景の一として、天下に知られてゐるだけに、海岸の風景は雄大豪壯である。岬一面、或は高く、或は低く、千態萬樣の奇巖亂立し、太平洋の怒濤をかんでしぶきを噴くところ、實に天下の絶景である。

海岸には、熱帶植物の赤榕が茂り山には梧桐・馬目樫・橘などの珍ら

しい樹木が、強風のためつみそろへたやうになつてゐるのも面白い。

岬の項上、最御崎寺は弘法大師のお開きになつたもので、四國第二十四番の札所である。附近には大師の遺跡や、傳說が多い。


龍串の奇勝（大竹小竹）

白堊の燈臺は高く山の綠に映えて、一際景色をひきたてゝゐる。

このあたり最も眺望よく、殊に燈臺上の眺めは又格別である。

父は右手はるかに水平線の彼方を指さして、

「あの邊、海岸線のつきるところが、足摺岬だ。岬の斷崖は高く、